

目 次

1	学生確保の見通し及び申請者としての取り組み状況	
(1)	学生確保の見通し	
1)	定員充足の見込み	2
2)	定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	9
3)	学生納付金の設定の考え方	15
4)	既設学科（専攻課程）の状況について	15
(2)	学生確保に向けた具体的な取組状況	
1)	全体的な状況	17
2)	具体的な取組	18
2	人材需要の動向等社会の要請	
(1)	人材の養成に関する目的その他教育上の目的（概要）	19
(2)	「人材の養成に関する目的その他教育上の目的」が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠	19
(3)	人材需要の根拠となる客観的なデータの概要	20

1 学生確保の見通し及び申請者としての取り組み状況

(1) 学生確保の見通し

1) 定員充足の見込み

①定員設定について

広大な面積を有する北海道は14の総合振興局・振興局に行政機関が置かれている。北海道総合政策部発表の住民基本台帳人口・世帯数による令和3年1月現在の十勝総合振興局管内人口は334,736人となっている。札幌市を含む石狩振興局管内を除き、北海道13の振興局管内の人口は減少傾向にあるが、十勝総合振興局管内の減少率は他の振興局に比べ緩やかである。

令和3年度、十勝管内の看護師養成数は75名(2校ともに看護専門学校)であり、人口10万人当たりの養成数は22.4人と北海道内の人口30万人を超える振興局管内で最も低い数値となっている。また、養成校2校は帯広市内にあり、卒業者の多くは帯広市内の病院と看護専門学校を運営する社会事業協会系列の病院へと就職し、十勝総合振興局管内の18町村には新規看護人材をほとんど輩出していない状況にある。(参考:十勝圏複合事務組合が運営する帯広高等看護学院(入学定員40名)の卒業生の進路状況は、平成30年度就職した35名のうち32名、令和元年度は就職者34名のうち29名、令和2年度は就職者29名のうち24名が帯広市内の医療機関に就職し、18町村には3年間で10名の就職者をだしているに過ぎない。帯広高等看護学院のホームページより)

地域の高齢化の進展に伴い、在宅医療や訪問看護体制、地域包括ケアシステムを構築する上で地域の看護人材を増やし、介護福祉士や栄養士など多職種連携による地域医療体制の充実を図ることは地域の最重要課題となっている。

このような状況を踏まえ、十勝総合振興局管内を中心に釧路・根室振興局管内、そして本学に進学実績のあるオホーツク総合振興局管内の高校生(令和3年度1年生及び2年生)に対する進学需要調査の結果を総合的に判断し、入学定員を40名とした。なお、進学需要調査については後述する。

【資料1】北海道総合振興局・振興局別人口と増減率の推移

【資料2】北海道総合振興局・振興局別看護師養成数

②北海道内における短期大学進学者の状況

北海道には短期大学が15校あるが、令和3年度の北海道内の高校出身者が道内短期大学へ進学する割合(残留率)は、全国で3番目に高い89.5%と全国平均(71.3%)を大きく上回っている。これは、北海道の短期大学進学者の地元志向の強さを表している。

【資料3】全国短期大学残留率(令和3年度)

③帯広大谷短期大学入学者の状況

十勝総合振興局管内は香川県や大阪府の約6倍の広さで岐阜県とほぼ同じ面積である。北海道のおよそ13%を占め、北海道の14の総合振興局・振興局の中で最も広い地域となっている。

本学は広大な面積を占める十勝総合振興局管内にある唯一の短期大学で、(表1)のとおり、本学の入学者の割合(5年間平均)は十勝総合振興局管内が94.4%と最も多く、釧路・根室管内、オホーツク管内を含めた道東圏では約97.7%である。中央の大雪山系や日高山脈、都市間の距離

の長さといった地理的要因もあり、この地域からの残留率は道内短期大学の残留率(89.5%)より高く、十勝管内を中心に道東圏で一定の認知を得ている短期大学となっている。

(表 1) 帯広大谷短期大学地域別入学率 (過去 5 年) (単位: %)

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	5 年平均
十勝管内	92.8	94.9	95.8	93.4	95.2	94.4
道東圏全体	97.6	96.2	98.6	97.6	98.6	97.7
その他	2.4	3.8	1.4	2.4	1.4	2.3

④看護師養成機関の現状

看護師養成校の現状について、大学、短期大学、専修学校（専門課程）に分けて、平成 29 年と令和 3 年時点の比較を行った。養成校の総数は、843 校から 855 校へと約 1.4%増加しており、入学定員は 52,866 人から 54,207 人に、約 2.5%増加していることがわかった。その中で、大学は 5 年間で学校数が 11%、入学定員で 12%の増加となり、看護師養成数の構成比も 42.9%から 46.7%へと拡大しており、看護師養成の大学化の流れが顕著である。看護師に求められる知識・技術が高度化・複雑化するにつれて、看護師養成が短期大学から大学へとシフトする傾向がうかがえる。

しかし、看護師資格取得を目指す志願者にとっては、修業年限が 4 年、学生納付金も短期大学に比べ相対的に高いことから、短期大学での看護師養成も必要と考える。

十勝総合振興局管内においては、令和 3 年度現在、看護師養成大学はなく、専修学校（専門課程）2 校で入学定員合計 75 人という状況であり、人口比に対する養成数を増やすためにも短期大学による看護師養成が期待される。

北海道内においては令和 3 年現在、4 年課程の看護師養成大学が 13 校で入学定員合計 1,010 人、3 年課程の看護師養成校は、専修学校（専門課程）が 36 校、入学定員合計 1,677 人という状況であり、文部科学省所管の短期大学による看護師養成が期待される。

【資料 4】看護師養成校の現状（3 年課程）

⑤短期大学と専修学校（専門課程）の制度上の違い

十勝総合振興局管内には看護師養成機関はいずれも専修学校（専門課程）である。都道府県が所管する専修学校においても看護師学校養成所指定規則に準じた教育を行い、国家試験受験資格が授与されるが、文部科学省所管の大学や短期大学においては、学校教育法上、7 年ごとに文部科学大臣の認証を受けた第三者評価機関による認証評価や情報公開等、質の保証が義務付けられている。

短期大学と専修学校（専門課程）の看護師養成は、修業年限が 3 年と同じであり、短期高等教育機関として競合関係にあるといえる。しかし、すでに述べたように、短期大学は制度上大学の一類型と位置付けられており、専門学校に比べて、教育課程の水準、専任教員の資質能力、施設設備などの教育環境について、必要とする水準を常態的に維持していくことが制度的に確保されており、一定水準以上の質が保証されていることに志願者の信頼は高いと考える。

⑥短期大学と専修学校（専門課程）の教育課程上の違い

令和3年1月現在、北海道の高齢化率は32.1%（全国18位）で、国立社会保障・人口問題研究所の高齢化将来予測では、令和7年（2025年）34.4%、令和17年（2035年）38.0%となる。厚生労働省は令和7年（2025年）を目途に高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を推進している。介護を受ける人は医療を受けることも多く、介護施設では、介護職員とともに看護師の配置基準も決められている。また高齢者は食の問題をかかえることも多く、栄養面でのサポートは管理栄養士や栄養士の協力が必要になる。

帯広大谷短期大学は、介護福祉士と栄養士の養成課程を有し、学生が互いに学び合う教育環境にあり、将来、地域における多職種連携による地域包括ケアシステムを構築する上で、豊かな教養教育と高い専門教育を受ける看護職の養成は、本学でこそ成し得る学修上のメリットととらえている。そして、短期大学の看護教育課程として、単に免許取得を目指すだけでなく、学問として「看護学」を学びマネジメントやリーダーシップを発揮できる看護職の養成を行う。

⑦高校生と保護者に関する意識

少子化による18歳人口のさらなる減少や新型コロナウイルス感染症の収束が今後どのようになるか懸念されるなか、令和2年に実施された「高校生と保護者の進路に関する意識調査」によれば、「将来就きたい職業・就いてほしい職業」について、次のような結果になっている。

まず、高校生については、全体の57%が将来就きたい職業が「ある」と答え、性別で見ると、「ある」の割合は女子が65%、男子が50%と女子の意識が高いことがわかる。希望進路別では、短期大学進学希望者の78%、専門学校希望者の80%が「ある」と回答している。

具体的に就きたい職業は、全体で「教師」が11.4%で最も多く、次いで「公務員」10.0%、「看護師」9.1%、「建築士・建築関連」と続いている。女子生徒の場合、第1位は「看護師」14.6%、次に「教師」8.8%である。

一方、保護者が子どもに就いてもらいたい職業が「ある」と回答したのは11%で、79%は子どもが希望する職業なら何でもよいとしている。具体的に就いてほしい職業では、男子生徒並びに女子生徒の保護者のトップは「公務員」となっているが、女子生徒の保護者では、第2位は「看護師」21.1%となっている。

女子生徒の第1位の「看護師」になりたい理由は、「やりがいがあるとともに深く人について知れ、自分の人生に役立つだろうから」、「人を助けられてやりがいがありそうだから」、「資格がいる職で大変だけど、一生無くならない仕事だから」というものがあった。また、保護者が就いてほしい理由としては、「高齢化社会で需要がある。絶対に必要な職業（ロボットの代わりにならない）。資格があれば転職に困らない。やりがいがありそう」、「看護師なら病院だけでなく、老人ホーム、学校等いろいろな所に就職できるから」、「人の役に立てる仕事の1つだから」というものであった。

以上のように、高校生とその保護者の「将来就きたい・就いてほしい職業」からは、看護師を養成する教育機関への関心度は高いといえる。

（参考：一般社団法人全国高等学校PTA連合会・株式会社リクルートマーケティングパートナーズの合同調査 「高校生と保護者の進路に関する意識調査」2019年報告書より）

⑧看護分野の短期大学と専修学校（専門課程）の入学状況

次に、看護系短期大学及び看護系専修学校（専門課程）の全国的な学生入学状況を確認したい。看護系短期大学 15 校は東北、関東、東海、関西、北信越、四国に点在しているが、その入学状況をみると、入学者は平成 29 年の 1,388 人から令和 3 年は 1,110 人と 20.0%の減少となっているが、志願率（入学志願者数/入学者数）は平成 29 年が 2.1、令和 3 年は 2.0 とほぼ横ばいである。平成 19 年には 37 校あった看護系短期大学の多くが 4 年制大学に転換し、志願者が専修学校（専門課程）の看護学科に移る傾向の時期もあった。具体的には、看護系短期大学は、平成 29 年には募集停止 6 校を除く 16 校が学生募集を行い、令和 3 年には募集停止の短期大学はなく 15 校が学生募集を行っている。その充足率は平成 29 年からの 5 年間の平均は 104.4 であり、学生確保は安定している状況である。

一方、専修学校（専門課程）の看護師 3 年課程への入学者数は、平成 29 年の 28,434 人から令和 3 年は 26,435 人と 1,999 人（7.0%）の減少となっている。また、志願率をみると、平成 29 年の 2.9 倍から令和 3 年は 2.4 倍と低下している。充足率についても平成 29 年は 98.4 と定員を下回り、令和 3 年は 95.1 にまで低下している。

本学は広大な北海道のなかでも人口がおよそ 90 万人を超える道東圏（十勝、釧路・根室、オホーツク）の看護学科志願者をターゲットにしている。地域的には本学と競合関係になるのは専修学校（看護師 3 年課程）であると考えられる。道東圏には 8 校の専修学校（看護師 3 年課程）があり、1 学年定員は合計 285 人となっている。これは、北海道内の専修学校（看護師 3 年課程）の 17.4%の養成者数となっている。この 8 校について、ホームページで内容等確認したが、運営主体が自治体（道立、市立）、医師会、社会医療法人、独立行政法人、複合事務組合、社会事業協会と多様であり、志願状況については次の 2 校にしか記載がなかった。下記の表の A は独立行政法人釧路労災看護専門学校、B は十勝圏複合事務組合帯広高等看護学院で、この 2 校の 5 年間の入学試験受験状況である。

		H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
専修学校 A (定員 30 人)	受験者数	97	82	79	60	73
	倍率	3.2	2.7	2.6	2.0	2.4
専修学校 B (定員 45 人)	受験者数	139	98	88	102	130
	倍率	3.0	2.7	2.0	2.2	2.9

2 校の受験倍率はいずれも 2 倍以上になっており、5 年間の平均倍率は専修学校 A が 2.6 倍、専修学校 B が 2.5 倍である。不合格者も当然出ているものと推測する。

従って、修業年限が同じ 3 年で豊かな教養教育と高い専門教育を行う本学看護学科への応募者も十分見込める状況である。また、専修学校（看護師 3 年課程）は卒業生の多くが、系列病院に採用される実態があり、看護系短期大学より就職先の選択肢が少ないことが考えられること、新設される本学看護学科の施設・設備などの教育環境を周知することにより、志願者を十分見込めると考える。

【資料 5】看護系短期大学（3 年課程）の学生募集状況の推移（平成 29 年～令和 3 年）

【資料 6】専修学校（看護師 3 年課程）の学生募集状況の推移（平成 29 年～令和 3 年）

【資料 7】4 年制大学（看護系）の学生募集状況の推移（平成 29 年～令和 3 年）

⑨中長期的な入学定員の確保見込み

中長期的な視点では少子化に伴う受験者数（高等学校卒業生数）の減少が問題となる。そこで、高等学校卒業生数と今後の卒業生数の推移を予測した。

その際、令和7年3月以降については令和3年度の中学3年生から小学3年生の数をあてはめたものであり、高等学校卒業予定者の見込としての傾向把握は十分に可能である。なお、北海道の高等学校進学率は、平成29年から令和3年までの5年間の平均は98.9%である。また、中学校卒業生のすべてが北海道内の高等学校へ進学するわけではなく、さらに、高等学校に入学してから卒業までには転退学者も出てくることも予想される。

資料から確認できることは次の通りである。

ア) 令和3年3月卒業生から令和6年3月卒業予定となる現在の高校1年生は北海道では3.7%、道東圏では8.1%減少する。本学への進学者の多い十勝では5.2%の減少である。

イ) 令和3年度中学3年生から小学4年生までの在学生徒・児童数は北海道、道東圏ともほぼ横ばいで推移する。釧路管内は現在の中学1年生から、根室管内は中学2年生から減少傾向である。

ウ) 令和3年度中学3年生を基準に小学3年生までの数をみると、その6年間では十勝管内とオホーツク管内の減少率は北海道よりも低い。

以上より、少子化傾向は続いていくが、学生募集の中心となる十勝管内とオホーツク管内においては、中長期的には減少幅が小さく、定員充足の見込みである。

（参考：北海道教育庁が令和3年9月に公表した公立高等学校配置計画（令和4年度～6年度）の資料である中学校卒業生数推計表でも令和3年の中学校卒業生（実数）から令和10年までの各年3月の卒業予定者推計においても同様の傾向となっている。）

【資料8】各年3月の北海道内高等学校卒業生数と見込み者数の推移予想

⑩社会人入学生の確保

平成28年3月、文部科学省は社会人の職業能力向上機会の拡大や、社会人の学び直しを促進させるため、その前提となる社会人の大学等における学び直しの実態把握に関する調査結果を公表した。「大学等」を対象とした調査では、「大学等が考える社会人学生が大学等で教育を受ける主な目的」については、短大・高専では「資格取得のため」と回答する割合が63.9%となっている。

「大学等に通う社会人学生」対象調査では、現在勤めている業種では男性、女性とも医療・福祉の分野が最も多く全体の29.8%となっている。また、学び直しを行う理由としては、「現在の職務を支える広い知見・視野を得るため」が50.7%で最も多くなっている。「修得したい知識・技能・資格等」では、複数選択の回答ではあるが、どの年齢層も一番に「専門的知識」をあげており全体で73.1%の割合である。

本学の社会人入学生の状況をみると、平成29年から令和3年まで5年間の社会人入学生は74名となっている。入学者全体に占める割合は9.5%である。本学には生活科学科栄養士課程や社会福祉科（子ども福祉専攻と介護福祉士専攻）があり、社会人入学生は栄養士や保育士、介護福祉士の資格取得を目指し、その取得した資格を生かせる職に就職したり、現在の職務のキャリアアップを図ることを目的としていたり、あるいは最新の専門的知識・技能を身に付けるために入

学している。十勝管内には看護系の大学・短大がなく、複雑化・高度化する医療・看護分野におけるリカレント教育の必要性は増している状況にある。以上のことから、社会人からもある程度の入学者を確保できるものとする。

①短期大学の役割と今後の在り方について

より深く高度な内容の学びを求める4年制大学への進学志向は北海道においても顕著である。しかし、少子高齢化社会のなかで、また地域の福祉・医療に携わる人材が不足するなかで、4年制大学より短い修業年限（看護学科は3年）で専門的職業人材を養成する短期大学は、学費を抑えて修学でき、4年制大学より早く職業に就き収入を得ることができる利点がある。本学には、生まれ育った地域に愛着を持ち続け、卒業後は地元の企業や福祉施設に就職したいという理由で入学する学生が多い。本学は、地理的要因だけではなく心理的な観点からも、大都市にある高等教育機関よりも身近な存在となっていることがうかがえる。例えば平成2年度の本学の就職率は100%でそのほとんどは福祉分野を中心に地元の福祉施設や地元企業に就職している。また、これまで根室やオホーツク方面の出身学生も、出身地に戻り図書館司書や介護福祉士として就職している。このことから短期大学は、人口減少のなかで専門職人材を養成して地元へ送り出し、コミュニティの基盤となる人材づくりの役割を持つと考える。それが地域にある短期大学の特色であり強みといえる。

平成26年8月、中央教育審議会大学分科会大学教育部会短期大学ワーキンググループは「短期大学の今後の在り方について」（審議まとめ）で、短期大学の機能別分化の推進を提言し、次の4つの機能を重点的に担っていくことがふさわしいと述べている。

ア) 専門職業人材の養成

- ・幼稚園教諭、保育士、看護師、栄養士、介護人材等の専門職業人材養成

イ) 地域コミュニティの基盤となる人材の養成

- ・金融、商業、ビジネススキル、情報、被服、芸術などの専門知識・技能と幅広い教養を併せ持つ地域コミュニティの基盤となる人材の養成

ウ) 知識基盤社会に対応した教養的素養を有する人材の養成

- ・短期大学の特色を活かした教養教育と専門教育の提供による知識基盤社会に対応した人材の養成

エ) 多様な生涯学習の機会の提供

- ・資格取得やキャリアアップを目指す社会人の学び直しプログラムや地域のニーズに対応した生涯学習プログラムの実施

また、本学は所在地の音更町と共同で生涯学習プログラム「00JC オープンカレッジ」を開催している。平成13年度から始まり令和2年度で20年目を迎えた生涯学習講座である。帯広市内にもサテライト教室を設けて地域住民の多様な学びを支えてきた。残念ながら、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度は全プログラムを中止せざるを得なくなったが、令和元年度まで毎年「社会人講座」を実施し、講座の受講を契機に受講者の子弟が入学する場合もある。平成27年から令和元年の5年間の状況は（表2）のとおりである。

(表 2) 社会人講座の開催状況

年 度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
講座回数	27	27	29	26	27
受講のべ人数	561	574	586	472	462

従って、本学は、平成 26 年に中央教育審議会大学分科会大学教育部会短期大学ワーキンググループが重点的に担うよう提言した短期大学の機能を地域の中で果たしている。

また、令和 3 年 12 月、中央教育審議会大学分科会は「これからの時代の地域における大学の在り方について」(審議まとめ)で、地方創生に資する魅力ある地方大学の実現に関する審議をまとめ提言している。その「終わりに」のなかで、ポストコロナ、ウィズコロナ社会において、地域の大学はその力を更に発揮して我が国社会の発展に寄与していくことが期待されるとし、その際の観点はいかに「地域ならではの」の取組を進めていくことができるかであると強調している。

短期大学においても、前述の特色や強みを生かし、「地域に根ざした地域所在の高等教育機関」として「地域ならではの」の保健医療介護福祉分野に役割を果たすことが重要であると考えている。

本学は、北海道内でも広大な面積を有する十勝総合振興局管内唯一の短期大学であり、今後も地域の専門職業人材の養成に当たっていききたいと考える。

⑫まとめ

- ア) 北海道は短大進学者の残留率が高く、さらに本学の入学者は、令和 3 年度において、十勝管内出身者が 94.4%、道東圏では 97.7%を占めていることから、十勝管内を中心に道東圏の看護学科志願者を入学につなげることができると考えている。
- イ) 看護師の養成数は増加し、その数は大学で顕著に表れており、短大から大学へシフトする傾向もうかがえる。しかし、短大のメリットは 3 年で資格が取れ、学納金も大学より低く抑えられることから、短大における看護師養成は必要と考えられる。
- ウ) 十勝管内における看護師養成校は専修学校(専門課程)に限られる。修業年限が同じであり競合関係にはなるが、短大には、教育の質保証が義務付けられており、本学の共通教養科目のひとつである「人間学」は、大いなる「いのち」に目覚め、人間として生きる喜びを見出すことを願いとする親鸞聖人の仏教精神を、理事長自ら学生に教え、いのちの尊さ、他者を受容する大切さ、そして自己を見つめ、生きることを意味を考えさせる科目であり、不易の人間観を学ぶことができる。志願者への周知に努め、教養教育の信頼度を一層高めていきたい。
- エ) 本学は栄養士、介護福祉士の養成課程も持つ。多職種連携による地域包括ケアシステムを構築する上で、学生が学びの中で多職種連携を意識する教育環境にあり、地域の期待に応える学修上のメリットを有する。
- オ) 高校生の「就きたい職業」の調査では、女子生徒の 1 位が看護師である。一方、保護者の「就いてほしい職業」によれば、女子生徒では公務員の 1 位に続き、2 位が看護師となっている。これら結果から、看護師養成校への関心と期待は高いと言える。
- カ) 看護系短期大学の入学者は平成 29 年度と令和 3 年度を比較して減少しているが志願率は

ほぼ横ばいに推移している。全国的に看護系短大の学校数は減少してはいるが、充足率で見ると平成29年からの5年間の平均は104.4%であり、安定的な傾向が見られる。一方、専門学校の入学者は平成29年度と令和3年度を比較して減少し、志願率でも減少傾向が見られた。豊かな教養教育を基盤に高い専門教育の質が維持される短大での看護師養成であるが、北海道内に唯一の看護系短期大学になるのが本学の看護学科であり、人口約90万人の道東圏の看護学科志願者をターゲットにすれば、十分に入学者を確保できると考える。

キ) 少子化に伴う高等学校卒業生数の減少は短期大学の運営に関しても大変危惧される場所である。しかし、北海道全体の減少率に比べ、本学が存在する十勝総合振興局管内の減少率は低く、定員充足に期待が持てる。

ク) 社会人の学び直しの目的として、短期大学で見ると「資格取得のため」が63.9%もあり、また、医療・福祉分野の就業者が社会人学生の中では最も多く、専門的知識を修得するために入学していることが分かった。本学が音更等と連携して開講する一般社会人向けの生涯学習講座が高いニーズを維持し続けていることから、この地域の社会人の学びに対するニーズは高いと言える。十勝管内には看護系の大学・短期大学はなく、医療・看護分野におけるリカレント教育の環境整備の必要性は高いと考えられ、社会人学生の入学も十分に見込むことができる。

ケ) 人口減少の中でこそ、地域に密着した高等教育機関である短期大学は専門職人材を地元で根付かせる重要な役割を担い、さらにポストコロナ、ウィズコロナの時代にあつて、地方大学の果たすべき役割は大きくなることを述べた。十勝で唯一の短期大学である本学は、時代に求められる地方の短期大学として専門職人材の育成を行い、地域の発展に寄与する役割を担っており、その期待は少なくないとする。

以上のことから、本学看護学科では、入学定員の40名を十分に確保できると考えるものである。

2) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

帯広大谷短期大学看護学科を設置するにあたり、定員充足の根拠を示す客観的なデータを得るため、高校生を対象としたアンケート調査を実施した。調査の概要は次のとおりである。

① 調査の目的

帯広大谷短期大学看護学科設置計画検討のため、アンケート調査により高校生の進学需要等を把握し、設置計画の基礎資料とする。

② 調査の対象

帯広大谷短期大学の既設学科への進学実績等を参考に選定した、新学科のターゲット層となる高等学校に在籍する1、2年生を対象とした。

具体的には、道東圏である十勝管内、釧路・根室管内、オホーツク管内の高等学校64校12,869人に協力を依頼した。

調査対象校の選定にあたっては、本学への入学実績(表3)から大多数が道東圏の高等学校出身者(令和3年度入学率98.6%)であることや広大な北海道の地理的な特徴を踏まえ、地元十勝を含む道東圏の高校生のニーズを重視した。調査に当たっては、事前に高等学校に連絡し、承諾の得られない高等学校及び看護系への進学実績のない工業高校等については対象から除いた。

(表 3)

帯広大谷短期大学入学者出身高等学校所在地別入学者数（過去 10 年間）					
	十勝管内	釧路管内	根室管内	オホーツク管内	計
入学者数(人)	1,382	16	17	41	1,456

③ 実施時期

令和3年7月21日から令和3年10月31日まで

④ 実施方法

アンケート用紙及び帯広大谷短期大学看護学科リーフレットを作成して、直接高等学校に持参し、アンケート調査の目的、設置の理念や学科の特色、養成する人物像、地域における役割等を説明して協力を依頼した。新型コロナウイルス感染症対策のため訪問できない高等学校には、電話で詳細を説明し送付する形で依頼を行った。

【資料9】新学科設置計画に係るニーズ調査報告書（高校生編）

⑤ 回収状況

64校12,869人を対象に調査票を配布し、その結果41校7,740人の調査票を回収することができたが、回収率は学校数で64.0%、高校生数で60.1%であった。ただし、回答学年不明の調査票が4件あったため、学年別では「2年生」3,716人、「1年生」が4,020人の合計7,736人である。

⑥ 調査委託機関

本調査については丸善雄松堂株式会社に委託して実施し、調査の客観性を担保した。

⑦ 調査結果

帯広大谷短期大学看護学科(仮称)への進学意向(学年別)は、「進学したいと思う」が1年生31人、2年生45人、「進学を検討したいと思う」が1年生249人、2年生212人となっている。

以上から、帯広大谷短期大学看護学科(仮称)開設年度の入学対象となる2年生の進学意向は、「進学したいと思う」が45人で入学定員(40人)の1.1倍、「進学を検討したいと思う」212人まで含めると6.4倍となり、帯広大谷短期大学看護学科(仮称)への進学需要があるといえる。

⑧ 「関心層」の定義と分析

さらに、本学看護学科(仮称)への関心を分析するために、質問9で「進学したいと思う」と「進学を検討したいと思う」と回答した合計537人(表4)を「関心層」と定義し、このうち特に高校2年生の「関心層」についてクロス集計を行い、改めて学生確保の見通しについて分析を行った。

(表4) 質問9 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)に進学したいと思いませんか。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	7,740	100.0
進学したいと思う	76	1.0
進学を検討したいと思う	461	6.0
進学したいと思わない	3,753	48.5
わからない	1,964	25.4
未回答・無効回答	1,486	19.2

⇒ 関心層

ア) 高校2年生の高校卒業後の進路と本学看護学科への進学意向

質問3と質問9のクロス集計における高校2年生の有効回答数は2,928件である。このうち、

卒業後の進路として大学進学意向が 1,415 名 (48.3%)、短大進学意向が 154 名 (5.3%)、専門学校進学意向が 813 名 (27.8%) であった。次がその集計 (表 5) である。

(表 5)

		質問 3 高校卒業後の進路希望						上段：人、下段：比率(%)
		大学進学	短期大学進学	専門学校進学	公共職業能力開発施設進学	就職	その他	合計
質問 9 (高校 2 年生) 本学への進学意向	進学を希望する	17	3	21	0	2	0	43
		39.5	7.0	48.8	0.0	4.7	0.0	100.0
	進学を検討する	76	15	93	0	16	9	209
		36.4	7.2	44.5	0.0	7.7	4.3	100.0
	進学を希望しない	926	91	412	0	299	35	1,763
		52.2	5.2	23.4	0.0	17.0	2.0	100.0
	わからない	396	45	287	0	143	42	913
		43.3	4.9	31.4	0.0	15.7	4.6	100.0
	全体	1,415	154	813	0	460	86	2,928
		48.3	5.3	27.8	0.0	15.7	2.9	100.0

(表 5) のとおり、「短期大学進学」を希望する高校 2 年生は 154 人 (5.3%) であり、そのうち本学看護学科へ「進学したいと思う」と回答した生徒は 3 人 (7.0%) であった。

このアンケート結果を別の視点から、次のとおり推測することができる。

本学の学生募集のターゲットとして考えている地域は、十勝管内、釧路・根室管内、オホーツク管内の道東圏である。この圏域の令和 3 年度高校 2 年生は 6,674 人である (【資料 8】より)。この 6,674 人に対し、アンケート結果にある「短期大学進学希望」の比率 (5.3%) を参考に推計すると約 354 人となり、そのうち本学看護学科に「進学したいと思う」と回答した比率 (1.9%) から推計すると、本学に「進学したいと思う」道東圏の高校生 2 年生は約 7 人となる。

また、「大学進学」・「専門学校進学」希望者の中からも本学看護学科に「進学したいと思う」と回答した高校 2 年生が 38 名いる。これは、本アンケート実施時点で北海道内には看護系短期大学が設置されていないことから、進路選択として大学、専門学校を選んでいるが、本学看護学科のパンフレットを参照し、学費・養成人物像を確認して関心を持ち、北海道に看護系短期大学が設置されるなら進学したいと考えるようになったと推測できる。

そのことから、道東圏の高校 2 年生 6,674 人のうち「大学進学」を希望する高校 2 年生の比率 (48.3%) では 3,224 人となり、これに本学に「進学したいと思う」と回答した高校 2 年生の比率 (1.2%) から推計すると約 39 人、同様に「専門学校進学」希望者は 27.8% で 1,855 人となり本学に「進学したいと思う」と回答した比率 (2.6%) で推計すると約 48 人となることから、合わせた約 87 人が看護系短期大学が設置されるなら本学への進学を希望する層であると推測できる。

前述のとおり、短期大学進学を希望し本学看護学科に「進学したいと思う」7 人と、北海道に看護系短期大学が設置されるなら進学を希望すると推測できる層、約 87 人を加えた計約 94 人の入学希望者を見込むことができる (表 6)。

(表 6)

アンケート 回答者合計 (A) 2,928 人 (高校 2 年生)	(A)のうち短期大学進学希望者(C)	(C)のうち本学に「進学をしたい」回答者
	154 人(5.3%)	3 人(1.9%)
	(A)のうち大学進学希望者(D)	(D)のうち本学に「進学をしたい」回答者
	1,415 人(48.3%)	17 人(1.2%)
	(A)のうち専門学校進学希望者(E)	(E)のうち本学に「進学をしたい」回答者
	813 人(27.8%)	21 人(2.6%)

↓ (推計)

道東圏高校 2 年生(G) 6,674 人	(G)のうち短期大学進学希望者推計(H)	(H)のうち本学に「進学をしたい」層の推計
	5.3% → 354 人	1.9% → 7 人
	(G)のうち大学進学希望者推計(I)	(I)のうち本学に「進学をしたい」層の推計
	48.3% → 3,224 人	1.2% → 39 人
	(G)のうち専門学校進学希望者推計(J)	(J)のうち本学に「進学をしたい」層の推計
	27.8% → 1,855 人	2.6% → 48 人
道東圏高校 2 年生 6,674 人のうち 本学に「進学をしたい」層の合計 (推計)		94 人

イ) 高校 2 年生の進学希望分野 (第 1 希望) と本学看護学科への進学意向 (表 7)

質問 4 の「進学希望分野」と質問 9 のクロス集計における高校 2 年生の有効回答数は 2,374 件である。ここでは、「関心層」の進学希望分野 (第 1 希望) の第 1 位から第 3 位までを取り上げる。進学希望分野のうち、「医療系 (看護・技術)」が第 1 位であり、そして本学看護学科への進学希望の比率は極めて高く、進学希望生徒数は 30 名である。また進学を検討すると答えた生徒も含めた「関心層」は 145 名となり、本学看護学科への進学者数を確保できると考える。

(表 7)

	上段：人数 下段：比率	進学希望 (A)	進学を検討 (B)	関心層 (A)+(B)	希望しない	わからない
進学希望分野	2,374 100.0	43 100.0	192 100.0	235 100.0	1,417 100.0	722 100.0
①医療系 (看護・技術)	529 22.3	30 69.8	115 59.9	145 61.7	174 12.3	210 29.1
②文科系 (教育・保育)	339 14.3	1 2.3	25 13.0	26 11.1	206 14.5	107 14.8
③医療系 (医・歯・薬)	158 6.7	4 9.3	11 5.7	15 6.4	95 6.7	48 6.6
その他の分野 の計	1,348 56.7	8 18.6	41 21.4	49 20.8	942 66.5	357 49.5

なお、進路希望分野（第2希望）では、「関心層」の第1位は医療系（医・歯・薬）、第2位は医療系（看護・技術）となっている。第2希望で医療系（看護・技術）と回答した「関心層」の数は50名となっている。

ウ) 高校2年生の進学希望地域と本学看護学科への進学意向（表8）

「関心層」において質問5の進学希望地域と本学看護学科への進学意向についてクロス集計を行った。ここでの有効回答数は2,477件である。

（表8）

	上段：人数 下段：比率	進学希望 (A)	進学を検討 (B)	関心層 (A)+(B)	希望しない	わからない
進学希望地域	2,477 100.0	42 100.0	195 100.0	237 100.0	1,490 100.0	750 100.0
東京・首都圏	407	3	10	13	302	92
大阪・関西圏	16.4	7.1	5.1	5.5	20.3	12.3
札幌市・札幌近郊	1,407 56.8	14 33.3	94 48.2	108 45.6	856 57.4	443 59.1
十勝管内	342 13.8	18 42.9	60 30.8	78 32.9	160 10.7	104 13.9
その他	321 13.0	7 16.7	31 15.9	38 16.0	172 11.5	111 14.8

「関心層」の進学希望地域は「札幌市や札幌近郊」が最も多いが、進学希望地域を「十勝管内」とした342人のうち「関心層」は78人（22.8%）と本学看護学科への進学意向が強く読み取れる。自由記述欄を見ると、十勝管内を希望する理由として、「近くで通いやすい」「自宅から通える」と言ったコメントがある。

エ) 高校2年生の取得したい資格と本学看護学科への進学意向（表9）

「関心層」において質問6で回答した取得したい資格と本学看護学科への進学意向についてクロス集計を行った。この集計における有効回答数は1,210件である。

（表9）

	上段：人 下段：比率	進学希望 (A)	進学を検討 (B)	関心層 (A)+(B)	希望しない	わからない
取得したい資格	1,210 100.0	68 100.0	261 100.0	329 100.0	428 100.0	453 100.0
看護師	465 38.4	37 54.4	130 49.8	167 50.8	123 28.7	175 38.6
保健師	107 8.8	13 19.1	28 10.7	41 12.5	35 8.2	31 6.8
助産師	114 9.4	5 7.4	34 13.0	39 11.9	33 7.7	42 9.3
養護教諭	45 3.7	2 2.9	16 6.1	18 5.5	10 2.3	17 3.8
その他の資格 の計	479 39.7	11 16.2	53 20.4	64 19.3	227 53.1	188 41.5

有効回答数 1,210 人のうち 38.4%の 465 人が「看護師」資格を取得したいと答えている。この数には、看護系大学や看護専門学校（専門課程）への進学希望者も含まれているが、本学看護学科へ進学希望の 68 人中「看護師」資格を取得したいとした高校 2 年生が半数以上の 37 人、「関心層」としては 167 人となり、「関心層」の最も取得したい資格となっている。看護師資格取得のために本学看護学科への進学需要があるといえる。また、「保健師」や「助産師」の資格をあげている「関心層」が一定数みられ、将来は看護師免許に加えて保健師や助産師の資格取得まで考えている生徒がいることがわかる。

オ) 本学看護学科へ進学する場合の重視ポイントと進学意向について (表 10)

質問 10 の本学看護学科へ進学する場合の重視ポイントと本学看護学科への進学意向についてアンケート調査の結果をみていく。ここでの回答は複数選択を可能にしており、高校 2 年生の有効回答数は 3,806 人となっている。なお、本学進学の「関心層」で重視ポイントの数の多い順に表を作成した。

(表 10)

	上段：人 下段：比率	進学希望 (A)	進学を検討 (B)	関心層 (A)+(B)	希望しない	わからない
重視ポイント	3,806 100.0	105 100.0	460 100.0	565 100.0	2,007 100.0	1,234 100.0
①学 費	1,234 32.4	27 25.7	128 27.8	155 27.4	665 33.1	414 33.5
②3 年で国家 試験受験資格	864 22.7	20 19.0	107 23.3	127 22.5	450 22.4	287 23.3
③十勝で学び たい	384 10.1	16 15.2	53 11.5	69 12.2	211 10.5	104 8.4
④奨学金制度 の利用	313 8.2	15 14.3	52 11.3	67 11.9	141 7.0	105 8.5
⑤十勝に就職 したい	291 7.6	8 7.6	39 8.5	47 8.3	160 8.0	84 6.8
⑥短期大学士 の学位	297 7.8	9 8.6	34 7.4	43 7.6	159 7.9	95 7.7

「関心層」の第 1 の重視ポイントは「学費」となっている。「関心層」の 155 人は、大学よりも修学期間が 1 年少なく済むこと、さらに 1 年早く就職して収入を得ることが可能になることを踏まえて、本学看護学科への進学を考えている層であると推測する。一方、競合する看護専門学校（専門課程）の学費は大学・短大より相対的に低くなっており、短期大学ならではの質の高い看護学の深い学びを主眼とした授業から看護専門学校との差別化を図る必要がある。第 2 の重視ポイントは「3 年で国家試験受験資格が得られる」となっているが、ここからも高校生が 4 年制大学ではなく短期大学を選択するメリットとして修学期間を重要視していることがわかる。

本学看護学科への進学意向のうち、3 番目の「十勝で学びたい」、4 番目の「奨学金制度の利用」、そして 5 番目の「十勝に就職したい」の項目については、「関心層」の比率が全体平均の比率より高くなっており、奨学金制度を確立することで本学看護学科への進学意欲が高まるものと考えられる。

なお、質問 7 の進学先を決める際の重視要因 (3 つまで回答) と本学看護学科への進学意向のクロス集計においても「関心層」が重視要因として回答した中で、「学費」、「奨学金の有無」、「実家からのアクセスや立地」が全体平均の比率より高く、質問 10 とのクロス集計とほぼ同様の結果となっており、学費を抑え、奨学金を活用し、自宅から通える場所で学び地元就職したいという

意向がうかがえる。

3) 学生納付金の設定の考え方

学生納付金については、看護学科の目的を達成するための教育体制を構築・維持し、完成年度とその後の収支均衡を図ることを基本として、また、競合校である北海道内私立看護系大学及び全国の看護系短期大学の初年次学納金を参考にし、学生に過度な負担とならないよう以下のとおり設定した。

初年次学納金	1,580,000円
(内訳) 入学金	200,000円
授業料等	1,380,000円

【資料 10】令和 3 年度北海道内看護系私立大学と全国看護系短期大学の初年次学生納付金一覧

4) 既設学科（専攻課程）の状況について

本学社会福祉科介護福祉専攻の過去 2 年の平均入学定員超過率は 0.69 であり 0.70 未満となっている。入学者減少に関しては、社会的な介護福祉士の不足状況と関連しており、(表 11) の社会福祉科介護福祉専攻の平成 22 年度から令和 3 年度までの入学者推移を見ると、平成 22 年度に 63 名だった入学者は平成 26 年度に 30 名を割り込み、平成 30 年度には 19 名まで減少した。

(表 11) 社会福祉科介護福祉専攻の入学者推移 (平成 22 年度～令和 3 年度)

	平成 22 年度～平成 30 年度									令和元年度～令和 3 年度		
	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	元年度	2 年度	3 年度
定員(人)	80	80	40	40	40	40	40	30	30	30	30	30
入学者(人)	63	53	30	32	24	22	23	32	19	21	23	19
充足率(%)	78.8	66.3	75.0	80.0	60.0	55.0	57.5	106.7	63.3	70.0	76.7	63.3

高齢化が一層進む社会のなかで介護従事者不足は大きな社会的問題である。介護に対する理解不足や介護職員の働き方についての誤った認識等が流布されているためか、介護に関する専門的知識や技能を学び国家資格取得を目指す高校生が減少している。その一方で、介護施設では人手不足を埋めるために、専門的知識や技術トレーニングもほとんど受けていない新規高卒者を介護従事者として採用している状況がある。

公益財団法人介護労働安定センターの「令和元年度介護労働実態調査」の事業所調査からは、介護サービスに従事する従業員の不足感は全体で 65.3%となっており、「訪問介護員」の不足感は最も高く 81.2%、「介護職員」は 69.7%と不足感が年々増加しているとしている。不足している理由としては、「採用が困難である」が 90.0%で、その原因を「同業他社との人材獲得競争が厳しい」が 57.9%となっている。労働者調査の結果では、「労働者の労働条件・仕事の負担に関する悩み・不安・不満等」の複数回答では、現場での「人手不足」が 55.7%となっていて「仕事内容のわりに賃金が低い(39.8%)」よりも高く、労働者自身の大きな悩みや不満となっている状況にある。仕事の満足度をみると、「仕事内容・やりがい」については 52.8%が「満足、もしくはやや満足」答えている。

(表 11) のとおり、本学ではこの分野の入学者が減少している状況にあるが、十勝管内で介護

福祉士の養成を行う本学は、地元の社会福祉法人等と確固とした関係を築いてきており、卒業時にはすべて就職先が確定している。また経験を積んだ卒業生は施設の中核として活躍している。令和4年3月現在、北海道において介護福祉士養成課程を持つ短期大学は本学のみとなっているが、本学の介護福祉士養成は地域の福祉を支える意味で、これからも大きな期待と責任を担っていると考えている。

これまで、介護福祉専攻の入学確保の施策として、教育連携校の高校生が介護福祉施設でインターンシップを行う際に、その事前・事後学習に本学教員が参加し、より深い学びに導く「インターンシップサポート事業」や、小学校、高等学校へ出向き、体験授業を実施するなど、介護職の魅力を伝える活動を行っている。さらに、入学減少が顕著となってきた平成26年からは音更町と協議を行い、入学者が卒業後に十勝管内で介護職に従事することを条件に学費減免や諸経費の補助を行う「音更町・帯広大谷短期大学ふるさと介護福祉士育成支援奨学金」を設置し、平成27年4月入学生から適用した。これは入学者の確保の点で一定の成果があり、平成29年度には入学者は32名まで回復した。しかし、すぐに入学者の減少に転じ令和3年度には再び19名、充足率63.3%にまで落ち込んでいる。終息の兆しが見えない新型コロナウイルス感染症の影響も否めないと考える。

このような状況において、介護福祉専攻の入学確保に関して次のような観点から方策を考えている。

①高校生の視線が介護福祉に向いていかない現実があるが、今後割合が増えていく高齢者の生活を支える上で必要な仕事であることやそのやりがいや意義を高校生のみならず義務教育段階の小中学生に対しても、人とのつながりや介護職の重要性について発達段階に応じた周知・理解を図ることを継続する。

②高校への募集活動では十分な成果が望めない現状であるが、介護福祉士の確保に向けた施策を打ち出すために地元の福祉事業所等と協議を開始した。すでに福祉施設の運営法人のなかには、いったん採用した高校生を本学に通学させ、資格取得した2年後には介護福祉士として従事させるところも出てきており、このような取り組みが広がるよう地元の事業所や施設と連携を一層進め、介護人材養成は地域全体で取り組むという共通理解を得て学生確保につなげていく。さらに自治体に対しても協力を願っているところである。

③本学介護福祉専攻では平成26年12月に音更町社会福祉協議会と連携協定を結び、学生が町内のひとり暮らしの高齢者に安否確認活動として電話をかけたり、コミュニケーション機会の提供のために訪問して話し相手になる活動を行ってきた。コロナ禍のなかでは手紙を書いたり、オンラインで面会して、孤独感や孤立感を軽減し元気づける言葉かけの活動も行っている。毎日できるわけではないが、地域の福祉力向上の一翼を担っていると考える。また、以前から介護福祉専攻の学生に限らず、高齢者が単身で入居している町所有のアパート4棟の2階部分に遠隔地から入学した女子学生が入居し、同じ建物で生活しながら交流したり、ゴミ出しや冬季の除雪など高齢者の生活を支えている。今後も、音更町、社会福祉協議会と連携・協力しながら地域の福祉に貢献していくつもりである。

④本学学長が昨年より日本介護福祉士養成施設協会理事、北海道ブロック会代表を務めている。これにより、北海道の介護人材養成校との情報共有や連携を深め、介護人材の養成に資することができると思う。

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

1) 全体的な状況

18歳人口の減少と4年制大学への進学志向の高まり、また地域社会のニーズに基づく雇用情勢等により、短期大学の学生募集には苦戦を強いられることが多いが、本学も例外ではない。

本学においては、この5年間にわたり、社会福祉科子ども福祉専攻が100%を超える充足率を示しているが、他の学科は、定員を満了した年度もあるが、短大全体としては平均して約80%を確保している状況となっている。(表12)

(表12) 本学各学科・専攻等充足率(過去5年)

単位：人、%		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
全 体	定員数	180	180	180	180	180
	入学者数	167	156	142	167	145
	充足率	92.8	86.7	78.9	92.8	80.6
地域教養 学科	定員数	40	40	40	40	40
	入学者数	33	25	25	40	23
	充足率	82.5	62.5	62.5	100.0	57.5
生活科学科 栄養士課程	定員数	40	40	40	40	40
	入学者数	31	38	25	28	32
	充足率	77.5	95.0	62.5	70.0	80.0
社会福祉科 子ども福祉 専攻	定員数	70	70	70	70	70
	入学者数	71	74	71	76	71
	充足率	101.4	105.7	101.4	108.6	101.4
社会福祉科 介護福祉専 攻	定員数	30	30	30	30	30
	入学者数	32	19	21	23	19
	充足率	106.7	63.3	70.0	76.7	63.3

十勝管内には高等教育機関が国立大学法人帯広畜産大学、本別町にある北海道立農業大学校、そして専修学校(専門課程)が3校ある。帯広畜産大学と道立農業大学校は、農業・畜産業に特化した高度な専門職養成を目指しており、志願者において基本的に本学と競合することはない。

進学を希望する高校生は十勝管内の大学・短大にはない学問分野に学びの場を求め、札幌圏、首都圏、大阪圏に進学先を求めていくケースが多い。

本学としては、地域や高校生のニーズを的確に判断し、短期大学の特色を訴え続けながら学生募集を行い、学生確保につなげることが可能であると判断する。特に、本学では開学以来60年にわたり十勝管内24校の公立私立高校との関係性を十分に保ちながら、学生募集につなげてきた実績を持つ。本学園には系列校として帯広大谷高校があり、いわゆる同一学園の強みを発揮してきた。また、帯広大谷高校をはじめ、道立の音更高校、芽室高校、私立白樺学園高校の計4校と教育連携協定を結んでいる。そのなかで高大連携の様々な事業も実施しており、その結果は、入学者にも反映されてきた(表13)。本来、十勝は地元志向の強い地域であり、高校生のニーズと重なり合えば、本学への志願は増加すると考えている。

(表 13) 教育連携協定校からの入学者数 (過去 5 年)

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
入学者総数	167	156	142	167	145
系列・連携校入学者数	59	55	47	66	60
占有率(%)	35.3	35.3	33.1	39.5	41.4

前述したように、北海道の短期大学残留率の高さや十勝管内を中心とする道東圏からの入学者の割合からみても、地元志向の強い地域である十勝において高校生のニーズに合わせた学科新設によって本学の学生募集力は格段に増加していくと考えられる。

以下、本学で実施している学生募集活動について具体的に説明する。

2) 具体的な取組

① 広報・渉外活動

本学ではアドミッション・センターを中心に既存学科の学生確保に係る活動は年間を通じて展開している。十勝管内のすべての高等学校や隣接する釧路・根室管内、オホーツク管内の本学に進学実績のある高等学校を訪問し、各校の進路指導担当者に本学の教育・研究の取組を説明し理解を得る活動を行っている。具体的な広報・渉外活動は、高校訪問、オープンキャンパス、校内説明会、学外における進学相談会などである。

また、高校側からの模擬授業、大学見学会、学校説明会などの依頼や要望に対し、高校別に担当教職員を割り当て、積極的に高校へ出向き、あるいは高校生を受入れるなど、学生募集活動はアドミッション・センター職員のみならず、教員も一丸となり活動している。連携協定高校の生徒を科目等履修生として受け入れて、受講した科目は入学後の単位の一部としている。さらに、大学授業の一端を体験できる「プレゼミ」を開催したり、さらに高校が実施するインターンシップの事前・事後指導を担当するなど、高校に本学の特色や魅力を直接高校生に伝える活動を行っている。

以上のことは、本学の教育理念、教育内容、修学支援やキャリア支援として理解・評価されており、看護学科についても同様の活動を行う。

② 高校訪問

これまでも十勝管内の全日制、定時制、通信制のすべての高等学校 (24 校) や隣接する釧路・根室管内の高等学校から入学した学生や卒業生の出身高校を訪問し、進路指導担当者に在学生の学修状況や卒業生の進路状況等について説明し、本学への理解を得る活動を行っている。また、学生募集要項や学校推薦型選抜の推薦者への対応を依頼している。看護学科についても学科の教育理念、特色あるカリキュラム、教育内容等に理解を得られるよう同様の活動を行う。

③ オープンキャンパス

本学では例年、年 6 回のオープンキャンパスを開催しており、入学者の 80%以上がオープンキャンパスの参加者であることから、参加者の満足度の高い事業と考える。

看護学科設置認可後には、同じくオープンキャンパスを実施し、高校生・保護者をはじめ、特に広く地域住民を対象とする。大学の紹介や入学試験案内の他、キャンパス案内、体験授業を実施し、学生生活をイメージしてもらう。高校生や保護者からの質問に教職員が答える質疑

応答や奨学金に関する個別相談を行う。

④ 校内説明会

高校生や高校進路指導担当者の看護学科に対する認知・理解を高めるために、要請があれば高校内で進路ガイダンスを実施する。特に、同じ学校法人が設置・運営している帯広大谷高等学校を中心に訪問し説明会を行いたい。

⑤ 学外進学相談会

業者主催の進学相談会に参加し、看護師に興味・関心のある高校生に本学の情報を発信するとともに看護学科の告知・周知を行い、オープンキャンパスの参加につなげる。

⑥ 各媒体による広報活動

本学ではアドミッション・センターを中心に様々な広報に係る活動を展開している。看護学科についても、十勝管内はもとより釧路・根室管内の高校生・保護者・高校教員に認知されることを目的とし、電子媒体(web)、マスメディア、進学情報誌、パンフレットなどで、設置理念、学内の施設・設備や学生生活の紹介等を行い、認知を広め理解を深める活動を行う。

2. 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他教育上の目的 (概要)

本学の建学の精神にある、生命について生涯にわたり学び続けることができる人材を育成する。特に看護学が実践の科学であることから、本学では人々の生命を護り健康課題を支援するために必要な看護実践能力を身につけながら、自己研鑽を継続する人材を育成する。また、保健・医療・介護・福祉のチーム活動において、看護の視点からマネジメントやリーダーシップを発揮できる看護職として、保健・医療・介護・福祉の多職種および地域の人々と共に育ちあう意思と、へき地看護に関心を持ち続け、地元創成看護学の創出に寄与する看護職を養成する。

本学科のディプロマポリシーは次のとおりである。

- 1.保健・医療・介護・福祉組織のチーム活動に必要なコミュニケーション能力を身につけている。
- 2.豊かな感性を持ち人間の生命と尊厳を守り、知識・技術・態度を統合して看護を実践できる。
- 3.科学的根拠に基づき臨床推論し、看護の対象に合わせて創意工夫・応用できる。
- 4.看護の使命と倫理観に基づき看護専門職として自己研鑽を継続できる。
- 5.保健医療介護福祉の課題に取り組む地域の人々と連携・協働し、地元創成に貢献する能力を身につけている。
- 6.国や民族・性別の枠を超えて多様な文化や価値観を受け入れ、国際的な健康課題を理解することができる。

(2) 「人材の養成に関する目的その他教育上の目的」が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

令和元年 11 月、北海道保健福祉部が発表した「第 8 次北海道看護職員需給推計」によれば、北海道における平成 30 年の看護職員就業者数は 78,870 人となっている。国の策定方針に基づく令和 7 年の看護職員需要数は 86,421 人、一方で、供給数は 85,005 人と推計しており、1,416 人の供給不足が見込まれるとしている。平成 30 年の就業者数との比較では需要が

1.10 倍、供給が 1.08 倍となり需給ギャップの解消には至らないと推測できる。

二次医療圏である十勝圏をみると、平成 30 年の就業者数が 4,420 人、令和 7 年の推計需要数は参考値としながらも 4,742 人と見込み、1.07 倍の需要比率になると試算している。すでに述べたように、十勝管内は人口 10 万人当たりの看護師養成数が 22.4 人と極めて低い状況にある。コロナ禍が終息する見通しもなく、特に在宅・介護分野での看護人材の需要は今後ますます高まっていくものとする。本学看護学科が看護師養成を行うことは、地域の人材需要の動向を踏まえており、十勝の看護職員の不足状況の改善につながると考える。

さらに、高齢化が進行する現在、地域包括ケアシステムの構築が進み、在宅医療の一層の充実が期待されるなか、本学の所在する音更町においても「第 8 期おとふけ生きいきプラン 21（第 8 期音更町高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画）」（令和 3 年 3 月音更町）で、「引き続き地域包括ケアシステムの深化・推進を目指す」としており、基本方針の一つ「在宅医療と介護が連携し暮らしを支えるしくみの実現」の中で「医療・介護の人材確保」を示している。

住み慣れた地域で安心して最期まで自宅で生活したいというニーズに対し、健康な暮らしを支え、生活と医療をつなぐ役割を果たす看護職員に求められる役割は大きく、地元で活躍する看護師を持続的に育成していくことが必要である。地元創成看護学を理念とした本学看護学科は、在宅・介護分野を含む地域で活動する看護職員の養成を通じて地域の医療体制を確かなものにし、人々が健康で豊かに暮らせる地域を作ることにある。

（3）人材需要の根拠となる客観的なデータの概要

帯広大谷短期大学看護学科を設置するにあたり、人材需要の根拠を示す客観的なデータを得るため、医療・福祉事業所を対象としたアンケート調査を実施した。調査の概要は次のとおりである。

①調査の目的

本学看護学科（仮）の卒業生の就職先になると考えられる事業所に対してアンケート調査を実施し、将来の人材需要等を把握した。

②調査の対象

帯広大谷短期大学看護学科卒業生の就職先として想定される道東圏の医療・福祉事業所 499 件を対象にアンケート調査を行った。

③実施時期

令和 3 年 7 月 14 日から令和 3 年 8 月 25 日まで

④実施方法

アンケート用紙と調査の意義とともに学科の特色を説明した帯広大谷短期大学看護学科リーフレットを各事業所に送付し協力を依頼し、返送があったアンケートについて集計・分析を行った。

【資料 11】新学科設置計画に係るニーズ調査報告書（事業所編）

⑤回収状況

499 事業所を対象に調査票を配布し、その結果 233 件の調査票を回収することができた。回

収率は 46.5%であった。

⑥調査委託機関

本調査については丸善雄松堂株式会社に委託して実施し、調査の客観性を担保した。

⑦調査結果

ア) 調査した事業所等については次の表のとおりである。

調査事業所件数	499	回答件数(回収率)	232 (46.7%)
事業所の種別	病院・医院・診療所	その他事業所	訪問看護ステーション
回答件数(比率)	101 (43.5%)	64 (27.6%)	35 (15.1%)
事業所所在地	十勝管内	釧路・根室管内	オホーツク管内
回答件数(比率)	170 (73.3%)	32 (13.8%)	26 (11.2%)
事業所の規模	50名未満	50～99名	100～299名
回答件数(比率)	136 (58.6%)	35 (15.1%)	43 (18.5%)

イ) 過去3年間の看護職員採用人数

回答事業所 232 の過去3年間の採用人数の総数は、次の表のとおりである。

採用年度	事業所数	採用人数(総数)
令和元年度	208	759
令和2年度	210	745
令和3年度	209	610

ウ) 看護人材充足状況

回答事業所の人材充足状況について尋ねると、「不足している」と「やや不足している」の合計は 110 事業所(47.7%)となっている。各事業所の人材不足の程度には違いがあるが、5割近くの事業所が人材不足と回答している。

エ) 看護人材採用時に重視する要因

高齢者や病気を患う人を相手にする職業であることから「コミュニケーション能力」を重視する事業所が最も多い 197 事業所(30.4%)となっている。次いで「チームで働く力」144(22.2%)、「課題発見・課題解決能力」「自己管理能力」が各 72(11.1%)と続いている。

一方、「語学力」「国際感覚(広い視野・価値観)」「専攻分野の基礎学力」はほとんど重視されていない。

オ) 帯広大谷短期大学看護学科(仮)の教育理念及び教育・研究の特色と卒業生に対する事業所の期待について

事業所の本学看護学科(仮)卒業生への期待に関する回答は、まさに本学看護学科(仮)が構成する教育・研究の特色と一致し、社会的需要に応えるものである。また、人材採用時の重視要因でも本学看護学科(仮)が育成を目指すのは、「コミュニケーション能力」や「チームで働く力」を有する看護職であり、事業所が採用時に重視する要因と合致している。

カ) 帯広大谷短期大学看護学科(仮)卒業生への期待

帯広大谷短期大学看護学科(仮)卒業生への期待について、「チームの一員として行動できる看護職」が195事業所(22.9%)と最も多く、「知識・技術・態度を統合して実践できる看護職」が172(20.2%)、「基礎的知識・技術を対象に合わせて創意工夫・応用できる看護職」153(18.0%)と続いた。

キ) 帯広大谷短期大学看護学科(仮)卒業生の採用意向・人数

「採用したい」が35事業所(うち4事業所は未回答)で71人、「採用を検討したい」が42事業所(うち7事業所未回答)65人となっており、これらの合計は人数を回答した事業所66で136人になった。

⑧ 分析結果

調査結果に基づく帯広大谷短期大学看護学科卒業生の採用意向人数は71人、未回答の4事業所においても最小の1名の採用と仮定すると、75人となり入学定員(40名)の1.9倍、「採用を検討したい」までを含めると147人で、入学定員の3.7倍になることがわかった。

以上から、看護学科卒業生の主な進路となる医療・福祉施設からの人材需要については、十分な採用需要があると考えられる。

添付資料一覧

- 【資料 1】 北海道総合振興局・振興局別人口と増減率の推移
- 【資料 2】 北海道総合振興局・振興局別看護師養成数
- 【資料 3】 全国短期大学残留率（令和 3 年度）
- 【資料 4】 看護師養成校の現状（3 年課程）
- 【資料 5】 看護系短期大学（3 年課程）の学生募集状況の推移（平成 29 年～令和 3 年）
- 【資料 6】 専修学校（看護師 3 年課程）の学生募集状況の推移（平成 29 年～令和 3 年）
- 【資料 7】 4 年制大学（看護系）の学生募集状況の推移（平成 29 年～令和 3 年）
- 【資料 8】 各年 3 月の北海道内高等学校卒業生数と見込み者数の推移予想
- 【資料 9】 新学科設置計画に係るニーズ調査報告書（高校生編）
- 【資料 10】 令和 3 年度北海道内看護系私立大学と全国看護系短期大学の初年次学生納付金一覧
- 【資料 11】 新学科設置計画に係るニーズ調査報告書（事業所編）

【資料1】

北海道総合振興局・振興局別人口と増減率の推移
北海道 14振興局別の人口と前年比増減率（5カ年）

	令和3年		令和2年		平成31年		平成30年		平成29年
	人口	増減率(%)	人口	増減率(%)	人口	増減率(%)	人口	増減率(%)	人口
空知総合振興局	282,686	-1.8	287,802	-2.0	293,770	-1.8	299,132	-1.8	304,555
石狩振興局	2,384,438	0.1	2,381,920	0.2	2,377,490	0.1	2,374,577	0.2	2,370,236
後志総合振興局	200,741	-2.8	206,592	-1.4	209,584	-1.6	213,005	-1.4	215,948
胆振総合振興局	382,781	-1.2	387,621	-1.1	391,990	-1.0	396,043	-1.0	400,072
日高振興局	64,335	-1.9	65,586	-2.0	66,894	-1.6	67,971	-1.8	69,194
渡島総合振興局	383,830	-1.5	389,500	-1.5	395,365	-1.4	400,823	-1.2	405,651
檜山振興局	34,261	-2.4	35,119	-2.9	36,168	-2.6	37,120	-2.4	38,037
上川総合振興局	484,972	-1.1	490,316	-1.1	495,947	-1.0	501,046	-0.9	505,390
留萌振興局	43,657	-2.2	44,638	-2.6	45,840	-2.1	46,834	-2.0	47,789
宗谷総合振興局	61,615	-1.7	62,707	-1.8	63,844	-1.8	65,039	-1.7	66,161
オホーツク総合振興局	273,695	-1.4	277,502	-1.5	281,630	-1.4	285,525	-1.3	289,331
十勝総合振興局	334,736	-0.7	336,986	-0.9	340,088	-0.8	342,668	-0.6	344,720
釧路総合振興局	224,208	-1.4	227,420	-1.4	230,748	-1.3	233,713	-1.2	236,595
根室振興局	72,777	-1.7	74,053	-1.3	75,055	-1.3	76,043	-1.4	77,128
北海道計	5,228,732	-0.7	5,267,762	-0.7	5,304,413	-0.7	5,339,539	-0.6	5,370,807

出典：住民基本台帳人口・世帯数（各年1月1日現在）北海道総合政策部

【資料 2】

北海道総合振興局・振興局別看護師養成数
北海道14総合振興局・振興局別人口と看護師養成数

令和3年度

	人口	養成校数	養成校のうち 大学数	養成数(人)	人口10万人当 たりの養成数(人)
空知総合振興局	282,686	5		192	67.9
石狩振興局	2,384,438	16	9	1,160	48.6
後志総合振興局	200,741	1		30	14.9
胆振総合振興局	387,621	5		260	67.1
日高総合振興局	64,335	1		30	46.6
渡島総合振興局	383,830	4		190	49.5
檜山振興局	34,261	1		40	116.8
上川総合振興局	484,972	7	3	360	74.2
留萌振興局	43,657	0		0	0
宗谷総合振興局	61,615	0		40	64.9
オホーツク総合振興局	273,695	3	1	170	62.1
十勝総合振興局	334,736	2		75	22.4
釧路総合振興局	224,208	4		140	62.4
根室総合振興局	72,777	0		0	0
合計数	5,233,572	49	13	2,687	51.3
北海道看護師養成数定員2,687人の内訳 大学定員1,010 (37.6%)					
看護専門学校定員1,677 (62.4%)					

出典：全国看護学校一覧（看護専門学校、看護系大学短大）【2021最新版】
令和3年1月1日現在住民基本台帳人口・世帯数（北海道総合政策部）

【資料 3】

全国短期大学残留率(令和3年度)

令和3年統計						
都道府県	18歳人口 H30中学3年生	短大進学率	地域所在短大 入学者数	所在地高校からの 入学数	短大地元残留率	順位
北海道	44,256	4.1	1,825	1,634	89.5	3
青森	11,260	5.0	563	385	68.4	25
岩手	11,138	4.3	478	295	61.7	36
宮城	20,776	4.7	971	844	86.9	4
秋田	7,918	6.0	479	292	61.0	38
山形	9,798	4.9	480	308	64.2	30
福島	17,285	5.1	886	625	70.5	20
茨城	26,976	2.8	752	336	44.7	44
栃木	18,225	4.1	744	541	72.7	14
群馬	18,520	4.3	797	638	80.1	7
埼玉	63,492	3.5	2,230	1,157	51.9	42
千葉	53,884	3.1	1,683	1,101	65.4	27
東京	103,921	1.9	1,995	1,371	68.7	23
神奈川	77,840	2.9	2,242	1,611	71.9	16
新潟	19,726	3.8	754	530	70.3	21
富山	9,552	6.5	622	423	68.0	26
石川	10,696	5.6	599	511	85.3	6
福井	7,302	5.0	366	227	62.0	34
山梨	7,561	5.5	418	287	68.7	24
長野	19,630	7.1	1,396	993	71.1	18
岐阜	19,453	5.5	1,077	808	75.0	12
静岡	33,863	3.5	1,202	743	61.8	35
愛知	70,273	3.2	2,248	2,039	90.7	2
三重	16,807	5.1	854	558	65.3	28
滋賀	14,024	4.8	677	350	51.7	43
京都	22,715	4.2	947	610	64.4	29
大阪	77,444	4.7	3,623	2,834	78.2	8
兵庫	49,970	3.8	1,875	1,456	77.7	9
奈良	12,855	4.2	544	217	39.9	46
和歌山	8,612	4.1	351	144	41.0	45
鳥取	5,268	7.1	375	239	63.7	32
島根	6,014	5.2	312	65	20.8	47
岡山	17,693	4.1	723	625	86.4	5
広島	25,924	2.9	760	538	70.8	19
山口	11,904	4.6	545	322	59.1	39
徳島	6,391	4.1	262	203	77.5	11
香川	8,944	5.0	446	322	72.2	15
愛媛	12,495	4.5	563	401	71.2	17
高知	6,010	4.4	266	184	69.2	22
福岡	45,558	4.5	2,032	1,890	93.0	1
佐賀	8,172	4.3	354	217	61.3	37
長崎	12,439	3.9	483	281	58.2	40
熊本	16,338	3.3	542	343	63.3	33
大分	10,183	7.2	732	568	77.6	10
宮崎	10,268	4.9	499	285	57.1	41
鹿児島	15,449	7.2	1,119	833	74.4	13
沖縄	16,128	3.6	584	374	64.0	31
	1,120,950	3.9	44,275	31,558	71.3	

【資料 4】

看護師養成校の現状（3年課程）

	入学定員（人）		学校数（校）	
	平成29年	令和3年	平成29年	令和3年
大 学	22,659 (42.9%)	25,310 (46.7%)	267 (31.7%)	296 (34.6%)
短期大学	1,300 (2.5%)	1,090 (2.0%)	22 (2.6%)	15 (1.8%)
専修学校 (専門課程)	28,907 (54.7%)	27,807 (51.3%)	554 (65.7%)	544 (63.6%)
合 計	52,866 (100.0%)	54,207 (100.0%)	843 (100.0%)	855 (100.0%)

出典：政府統計「看護師等養成所入学状況及び卒業生就業状況調査」

【資料5】

看護系短期大学（3年課程）の学生募集状況の推移（平成29年～令和3年）

	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
学校数	16	17	17	17	15
入学定員	1,300	1,390	1,230	1,160	1,090
志願者数	2,939	3,143	2,771	2,754	2,231
受験者数	2,784	3,004	2,632	2,641	2,083
合格者数	1,834	1,924	1,675	1,594	1,495
入学者数	1,388	1,472	1,271	1,201	1,110
志願倍率 志願者数/入学者数	2.1	2.1	2.2	2.3	2.0
充足率	107.0	105.9	103.3	103.5	101.8

募集停止の短期大学は学校数から除いている。

出典：政府統計「看護師等養成所入学状況及び卒業生就業状況調査」

【資料6】

専修学校（看護師3年課程）の学生募集状況の推移（平成29年～令和3年）

	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
学校数	554	558	557	551	544
入学定員	28,907	28,802	28,447	28,232	27,807
志願者数	82,874	76,935	71,258	65,467	63,164
受験者数	78,659	73,107	67,611	61,945	59,712
合格者数	37,875	36,901	35,732	35,479	34,165
入学者数	28,434	27,963	27,197	27,064	26,435
志願倍率 志願者数/入学者数	2.9	2.8	2.6	2.4	2.4
充足率	98.4	97.1	95.6	95.9	95.1

出典：政府統計「看護師等養成所入学状況及び卒業生就業状況調査」

【資料7】

4年制大学(看護系)の学生募集状況の推移(平成29年～令和3年)

	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
学校数	267	280	288	293	296
入学定員	22,656	23,840	24,695	25,048	25,310
志願者数	137,438	148,577	148,539	147,359	139,237
受験者数	126,497	136,415	135,913	135,888	127,364
合格者数	43,171	45,558	47,352	49,683	49,954
入学者数	24,007	25,048	25,619	25,815	26,110
志願率 志願者数/入学者数	5.7	5.9	5.8	5.7	5.3
充足率	106.0	105.1	103.7	103.1	103.2

出典：政府統計「看護師等養成所入学状況及び卒業生就業状況調査」

【資料8】

各年3月高等学校卒業生数と見込み者数の推移予想

(令和3年度在学生徒数・児童数から)

単位：人、%（R3年3月を100として）

高校卒業年月		R2年3月	R3年3月	R4年3月	R5年3月	R6年3月	R7年3月
令和3年学年				高校3年	高校2年	高校1年	中学3年
北海道計	卒業生数	39,976	39,200	39,046	38,329	37,743	41,395
	増減数	102.0	100.0	99.6	97.8	96.3	105.6
道東圏計	卒業生数	7,228	7,018	6,787	6,674	6,453	7,438
	増減数	103.0	100.0	96.7	95.1	91.9	106.0
十勝	卒業生数	2,782	2,720	2,695	2,654	2,579	2,855
	増減数	102.3	100.0	99.1	97.6	94.8	105.0
釧路	卒業生数	1,791	1,720	1,643	1,617	1,567	1,819
	増減数	104.1	100.0	95.5	94.0	91.1	105.8
根室	卒業生数	598	562	531	565	497	675
	増減数	106.4	100.0	94.5	100.5	88.4	120.1
オホーツク	卒業生数	2,057	2,016	1,918	1,838	1,810	2,089
	増減数	102.0	100.0	95.1	91.2	89.8	103.6
高校卒業年月		R8年3月	R9年3月	R10年3月	R11年3月	R12年3月	R13年3月
令和3年学年		中学2年	中学1年	小学6年	小学5年	小学4年	小学3年
北海道計	卒業生数	40,741	40,607	39,960	39,880	39,108	38,141
	増減数	103.9	103.6	101.9	101.7	99.8	97.3
道東圏計	卒業生数	7,365	7,248	6,960	7,114	7,024	6,761
	増減数	101.9	103.3	99.2	101.4	100.1	96.3
十勝	卒業生数	2,883	2,847	2,673	2,770	2,775	2,678
	増減数	106.0	104.7	98.3	101.8	102.0	98.5
釧路	卒業生数	1,803	1,672	1,658	1,648	1,583	1,484
	増減数	104.8	97.2	96.4	95.8	92.0	86.3
根室	卒業生数	646	629	611	566	629	587
	増減数	114.9	111.9	108.7	100.7	111.9	104.4
オホーツク	卒業生数	2,033	2,100	2,018	2,130	2,037	2,012
	増減数	100.8	104.2	100.1	105.7	101.0	99.8

出典：文部科学省 令和3年学校基本調査

【資料9】

**新学科設置計画に係る
ニーズ調査報告書（高校生編）**

**丸善雄松堂株式会社
Research & Innovation 本部
コンサルティング部**

Ⓜ MARUZEN-YUSHODO

目次

1. 調査概要	2
2. 調査・分析結果の要旨	3
3. 全体集計結果	6
4. 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への関心分析	22
5. 補記	33

1. 調査概要

(1) 調査目的

帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)設置計画検討のため、本アンケート調査により高校生の進学需要等を把握し、設置計画の基礎資料とすることを目的とする

(2) 調査対象

帯広大谷短期大学の既設学科への進学実績等を参考に選定した、新学科のターゲット層となる高等学校に在籍する1、2年生

(3) 実施時期

2021年7月21日～2021年10月31日

(4) 回収状況

本調査では、64校12,869人を対象に調査票を配布し、その結果41校7,740件の調査票を回収することができた(回収率60.1%)

(5) 調査方法

調査票による定量調査(アンケート調査)

(6) 利用調査票

添付アンケート調査票参照

2. 調査・分析結果の要旨

(1) 調査結果の要旨

① 学年

回答者の学年は、「1年生」が4,020人(51.9%)、「2年生」が3,716人(48.0%)で「2年生」より「1年生」の方がやや多くなっている。

② 居住地域

回答者の居住地域は、「十勝管内」4,478人(57.9%)が最も多く6割近くとなっており、「釧路・根室管内」2,144人(27.7%)、「オホーツク管内(網走・北見・紋別)」1,050人(13.6%)と続いている。

③ 高校卒業後の進路

回答者の高校卒業後の進路は、「大学への進学」3,405人(44.0%)が最も多く、「就職」1,900人(24.5%)、「専門学校への進学」1,754人(22.7%)と続いている。

④ 進学希望分野

回答者の進学希望分野(第1希望)は、第1位が「医療系(看護・技術)」1,134人(14.7%)で、第2位「文科系(教育・保育)」776人(10.0%)、第3位「芸術・体育系」731人(9.4%)と続いている。看護学科(仮称)と同分野となる「医療系(看護・技術)」が第1位となっている。

回答者の進学希望分野(第2希望)は、第1位が「文科系(教育・保育)」686人(8.9%)で、第2位「文科系(文・語学・心理学)」665人(8.6%)、第3位「医療系(医・歯・薬)」650人(8.4%)と続いている。看護学科(仮称)と同分野となる「医療系(看護・技術)」533人(6.9%)は第5位となっている。

⑤ 進学希望地域

回答者の進学希望地域は、「札幌市や札幌近郊」3,116人(40.3%)が最も多く、「東京・首都圏や大阪・関西圏」1,051人(13.6%)、「十勝管内」812人(10.5%)と続いている。

⑥ 取得したい資格

回答者の取得したい資格は、「看護師」が990人(37.2%)で最も多く、「理学療法士」378人(14.2%)、「助産師」270人(10.2%)と続いている。

⑦進学先決定時の重視要因

回答者の進学先決定時の重視要因は、第1位が「技術や資格の取得」3,681人(21.6%)で、第2位「卒業後の就職実績」2,772人(16.2%)、第3位「学費(入学金・授業料)」2,494人(14.6%)となっている。

⑧帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への興味・関心

回答者の帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への興味・関心は、「興味・関心がある」が366人(4.7%)、「ある程度の興味・関心がある」が1,370人(17.7%)で、何らかの興味・関心を持つこれらの回答者の合計が1,736人(22.4%)となっている。一方、「あまり興味・関心がない」1,840人(23.8%)、「興味・関心がない」は1,187人(15.3%)で、これらの合計は3,027人(39.1%)となっている。

⑨帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への進学意向(全体)

帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への進学意向(全体)は、「進学したいと思う」が76人(1.0%)、「進学を検討したいと思う」が461人(6.0%)で、何らかの進学の意向を持つこれらの回答者の合計が537人(7.0%)となり、進学意向は「進学したいと思う」で入学定員(40人)の1.9倍、「進学を検討する」まで含めると13.4倍となる。

⑩帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)へ進学する場合の重視ポイント

回答者の帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)へ進学する場合の重視ポイントは、「学費」2,711人(23.9%)が最も多く、「3年で国家試験受験資格が得られる」1,882人(16.6%)、「十勝で学びたい」790人(7.0%)と続いている。

(2)分析結果の要旨

帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への進学意向(学年別)は、「進学したいと思う」が1年生31人、2年生45人、「進学を検討したいと思う」が1年生249人、2年生212人となっている。一方、「進学をしたいと思わない」は1年生1,983人となっている。また、「わからない」は1年生1,046人、2年生917人となっている。

以上から、帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)開設年次の入学対象となる2年生の進学意向は、「進学したいと思う」45人のみで入学定員(40人)の1.1倍、「進学を検討したいと思う」212人まで含めると6.4倍となり、帯広大谷短期大学看護学科(仮称)への進学需要があるといえる。(P16)

但し、「Q8)帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への興味・関心」では1,493人(19.3%)が、「Q9)-1 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への進学意向(全体)」でも1,964人(25.4%)が「わからない」と回答しており、「Q11)帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への意見要望」でも具体的にどのようなことを学ぶのかを問うコメントがみられることから、養成する人材像や教育・研究の特色が十分に伝わっていない層がいることが窺われる。従って、**今後さらに看護学科(仮称)への理解を深め進学者層を拡大するために、オープンキャンパスや説明会等で教育・研究の目的と養成する人材像、学生に身につけさせる能力について、卒業後の進路との関係も含めて具体的に説明していくことが今後の課題となる。**

また、進学先決定時の重視要因として関心層は、「技術や資格の取得」「学費(入学金・授業料)」「卒業後の就職実績」を重視しており(P30)、「Q11)帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への意見要望」でも学費や資格、地域といったキーワードがみられることから、3年制の短期大学ならではのメリットを求める一定数の入学者層がいることがわかる。従って、4年制大学や専門学校にはない短期大学ならではの特色を明確にしながら、地域の人材を受け入れ、地域に活躍する人材として送り出すことで地域貢献することも重要な成功要因になると考える。

3. 全体集計結果

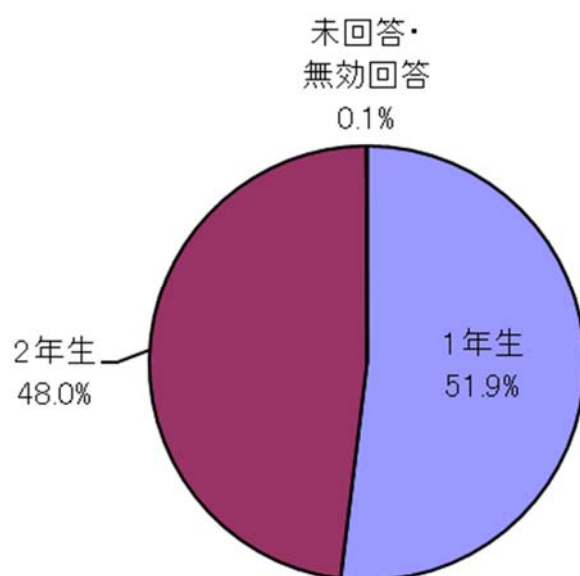
Q1) 学年

回答者の学年は、「1年生」が4,020人(51.9%)、「2年生」が3,716人(48.0%)で「2年生」より「1年生」の方がやや多くなっている。

Q1) あなたの学年は、どちらですか。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	7,740	100.0%
1年生	4,020	51.9%
2年生	3,716	48.0%
未回答・無効回答	4	0.1%

Q1



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

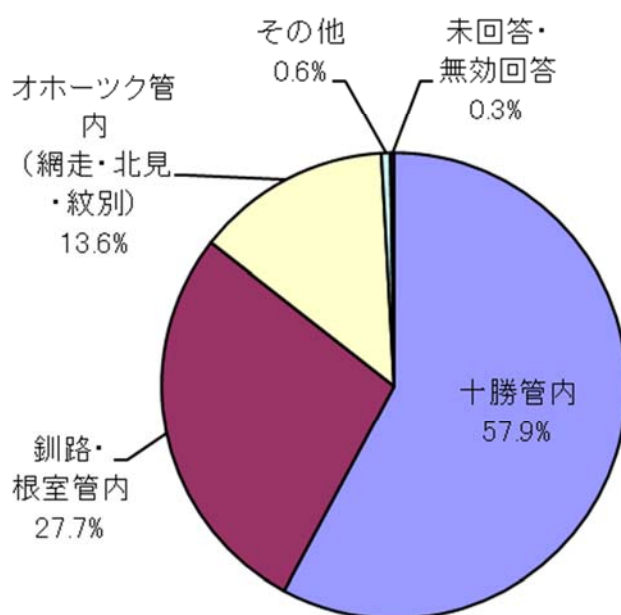
Q2) 居住地域

回答者の居住地域は、「十勝管内」4,478人(57.9%)が最も多く6割近くとなっており、「釧路・根室管内」2,144人(27.7%)、「オホーツク管内(網走・北見・紋別)」1,050人(13.6%)と続いている。

Q2) あなたのお住まいはどちらですか。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	7,740	100.0%
十勝管内	4,478	57.9%
釧路・根室管内	2,144	27.7%
オホーツク管内(網走・北見・紋別)	1,050	13.6%
その他	48	0.6%
未回答・無効回答	20	0.3%

Q2



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

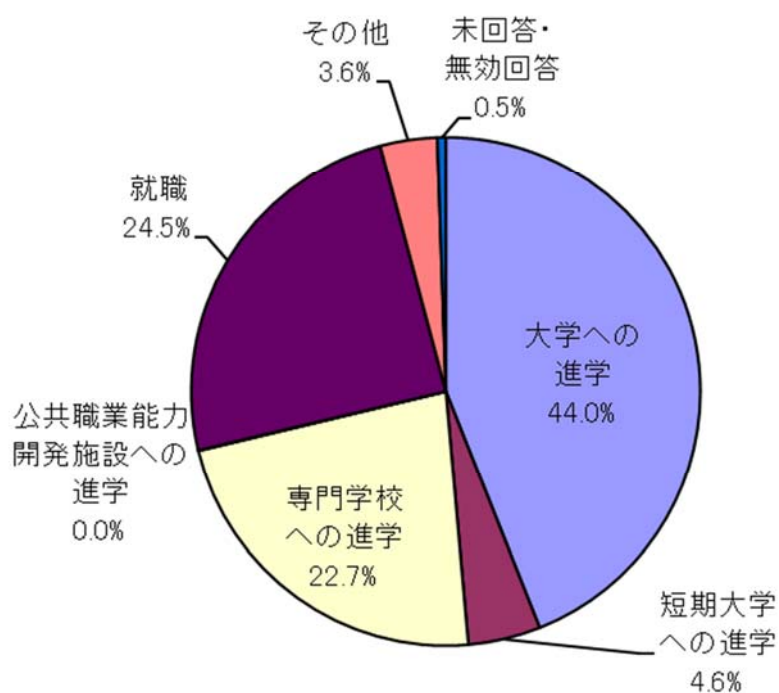
Q3) 高校卒業後の進路

回答者の高校卒業後の進路は、「大学への進学」3,405人(44.0%)が最も多く、「就職」1,900人(24.5%)、「専門学校への進学」1,754人(22.7%)と続いている。

Q3) あなたは高校卒業後どのような進路を考えていますか。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	7,740	100.0%
大学への進学	3,405	44.0%
短期大学への進学	356	4.6%
専門学校への進学	1,754	22.7%
公共職業能力開発施設への進学	3	0.0%
就職	1,900	24.5%
その他	280	3.6%
未回答・無効回答	42	0.5%

Q3



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q4)-1 進学希望分野(第1希望)

回答者の進学希望分野(第1希望)は、第1位が「医療系(看護・技術)」1,134人(14.7%)で、第2位「文科系(教育・保育)」776人(10.0%)、第3位「芸術・体育系」731人(9.4%)と続いており、看護学科(仮称)と同分野となる「医療系(看護・技術)」が第1位となっている。

Q4) あなたの進学したい分野は次のうちのどれですか。(第1希望)

第1希望	回答数(人)	構成比(%)
総計	7,740	100.0%
医療系(看護・技術)	1,134	14.7%
医療系(医・歯・薬)	394	5.1%
文科系(教育・保育)	776	10.0%
文科系(文・語学・心理学)	507	6.6%
文科系(法・社会学系)	262	3.4%
文科系(経済・商学系)	492	6.4%
理科系(理・工学系)	693	9.0%
理科系(農・水産系)	215	2.8%
家政系(食物・栄養・家政学)	295	3.8%
芸術・体育系	731	9.4%
未回答・無効回答	2,241	29.0%

Q4 第1希望



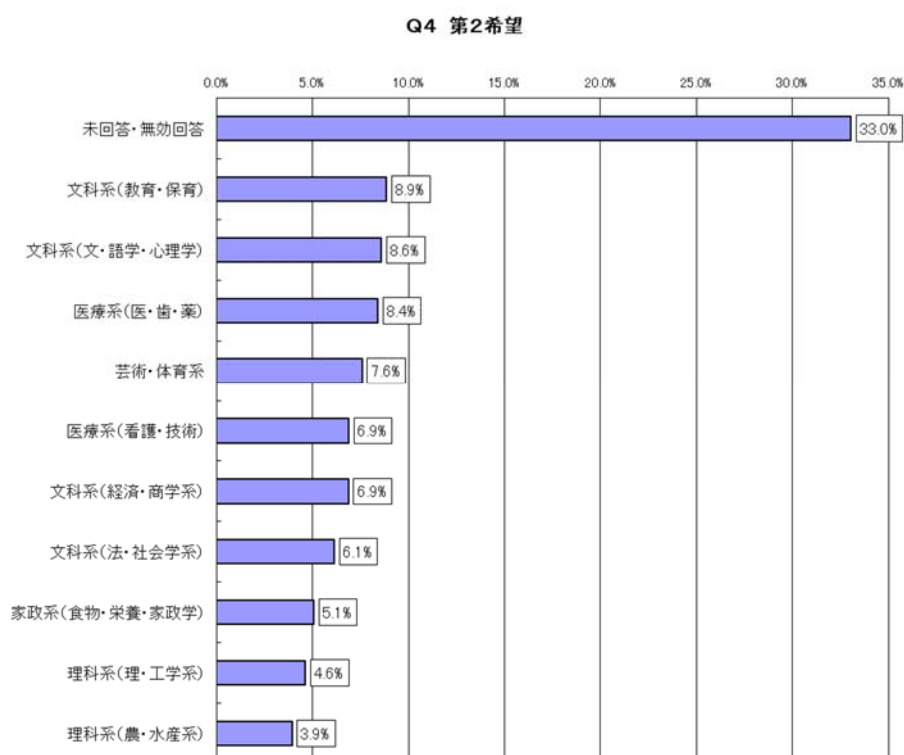
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q4)-2 進学希望分野(第2希望)

回答者の進学希望分野(第2希望)は、第1位が「文科系(教育・保育)」686人(8.9%)で、第2位「文科系(文・語学・心理学)」665人(8.6%)、第3位「医療系(医・歯・薬)」650人(8.4%)と続いており、看護学科(仮称)と同分野となる「医療系(看護・技術)」533人(6.9%)は第5位となっている。

Q4) あなたの進学したい分野は次のうちのどれですか。(第2希望)

第2希望	回答数(人)	構成比(%)
総計	7,740	100.0%
医療系(看護・技術)	533	6.9%
医療系(医・歯・薬)	650	8.4%
文科系(教育・保育)	686	8.9%
文科系(文・語学・心理学)	665	8.6%
文科系(法・社会学系)	475	6.1%
文科系(経済・商学系)	532	6.9%
理科系(理・工学系)	359	4.6%
理科系(農・水産系)	304	3.9%
家政系(食物・栄養・家政学)	392	5.1%
芸術・体育系	587	7.6%
未回答・無効回答	2557	33.0%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

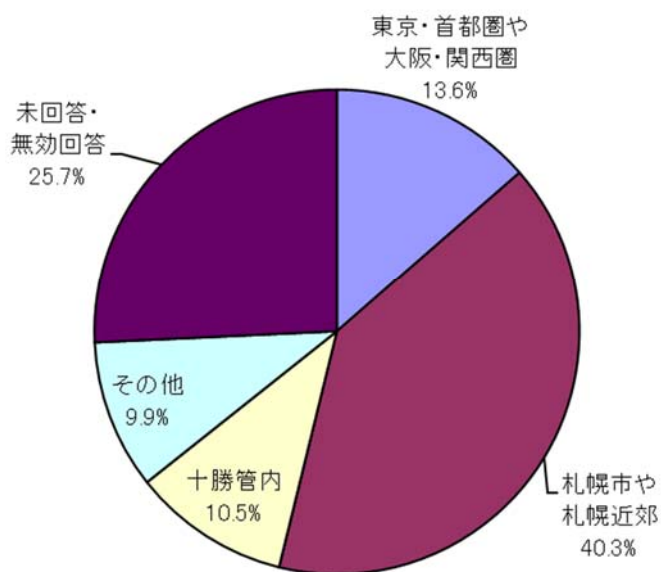
Q5) 進学希望地域

回答者の進学希望地域は、「札幌市や札幌近郊」3,116人(40.3%)が最も多く、「東京・首都圏や大阪・関西圏」1,051人(13.6%)、「十勝管内」812人(10.5%)と続いている。

Q5) 実際に進学するとしたなら、次のどの地域を希望しますか。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	7,740	100.0%
東京・首都圏や大阪・関西圏	1,051	13.6%
札幌市や札幌近郊	3,116	40.3%
十勝管内	812	10.5%
その他	769	9.9%
未回答・無効回答	1,992	25.7%

Q5



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

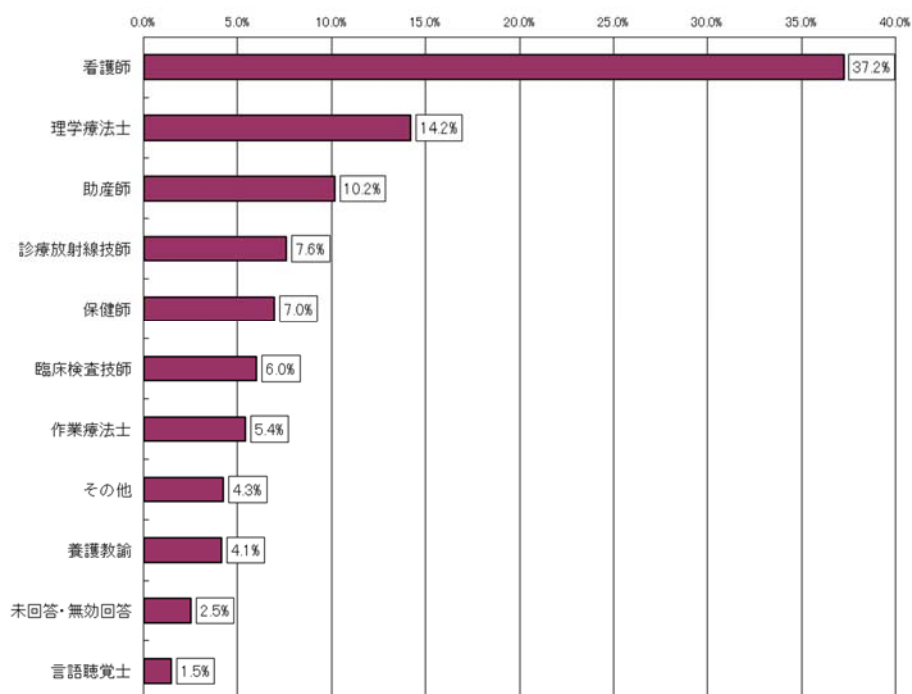
Q6) 取得したい資格 *複数選択可(2つまで) 「医療系(看護・技術)」進学希望者が回答

回答者の取得したい資格は、「看護師」が990人(37.2%)で最も多く、「理学療法士」378人(14.2%)、「助産師」270人(10.2%)と続いている。

Q6) あなたが取得したいと思う資格を次の中から2つまで選び○をつけて下さい。

	回答数(人)	構成比(%)
総計	2,658	100.0%
看護師	990	37.2%
保健師	185	7.0%
助産師	270	10.2%
養護教諭	110	4.1%
理学療法士	378	14.2%
作業療法士	144	5.4%
言語聴覚士	39	1.5%
診療放射線技師	202	7.6%
臨床検査技師	160	6.0%
その他	113	4.3%
未回答・無効回答	67	2.5%

Q6



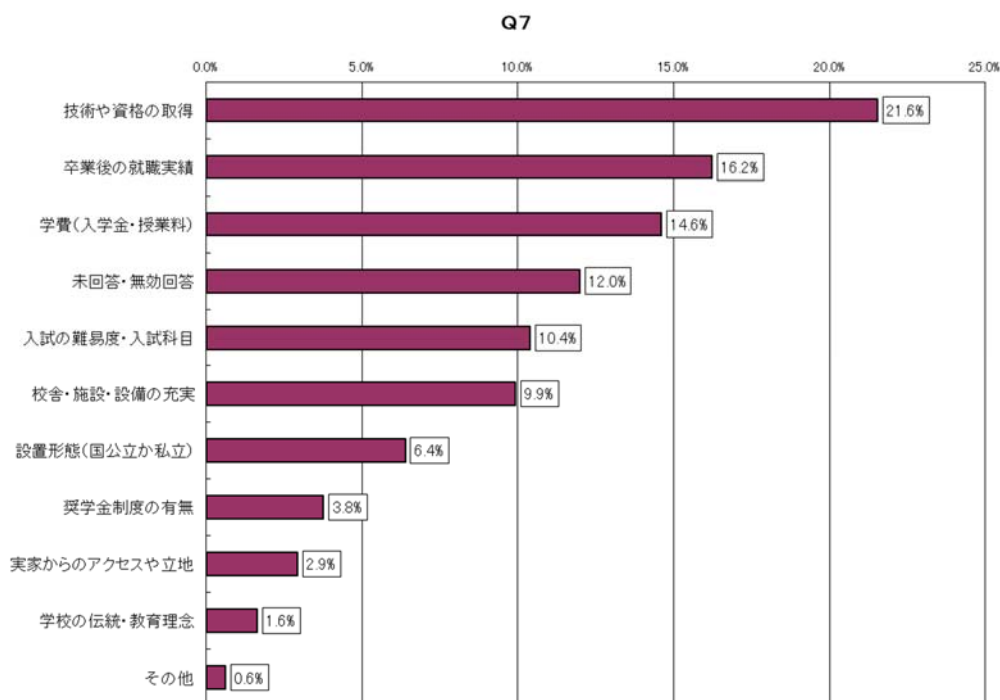
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q7) 進学先決定時の重視要因 *複数選択可(2つまで)

回答者の進学先決定時の重視要因は、第1位が「技術や資格の取得」3,681人(21.6%)で、第2位「卒業後の就職実績」2,772人(16.2%)、第3位「学費(入学金・授業料)」2,494人(14.6%)となっている。

Q7) あなたは進学先を決定する際に、どのような要因を重視しますか。

総計	17,081	100.0%
技術や資格の取得	3,681	21.6%
卒業後の就職実績	2,772	16.2%
校舎・施設・設備の充実	1,694	9.9%
設置形態(国公立か私立)	1,091	6.4%
学費(入学金・授業料)	2,494	14.6%
奨学金制度の有無	644	3.8%
学校の伝統・教育理念	279	1.6%
入試の難易度・入試科目	1,774	10.4%
実家からのアクセスや立地	500	2.9%
その他	105	0.6%
未回答・無効回答	2,047	12.0%



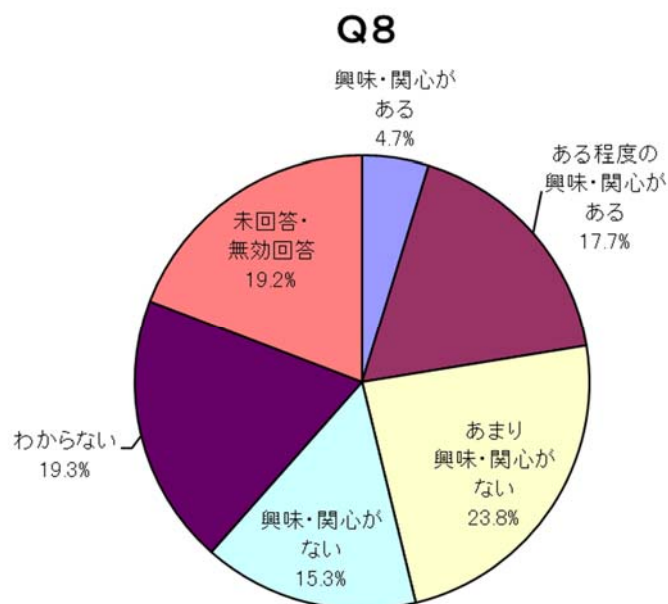
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q8) 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への興味・関心

回答者の帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への興味・関心は、「興味・関心がある」が366人(4.7%)、「ある程度の興味・関心がある」が1,370人(17.7%)で、何らかの興味・関心を持つこれらの回答者の合計が1,736人(22.4%)となっている。一方、「あまり興味・関心がない」1,840人(23.8%)、「興味・関心がない」は1,187人(15.3%)で、これらの合計は3,027人(39.1%)となっている。また、1,493人(19.3%)が「わからない」と回答しており、この層には帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)の養成する人材像や教育・研究の特色が十分に伝わっていない可能性がある。

Q8) 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)が目指すイメージについてどの程度、興味・関心がありますか。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	7,740	100.0%
興味・関心がある	366	4.7%
ある程度の興味・関心がある	1,370	17.7%
あまり興味・関心がない	1,840	23.8%
興味・関心がない	1,187	15.3%
わからない	1,493	19.3%
未回答・無効回答	1,484	19.2%



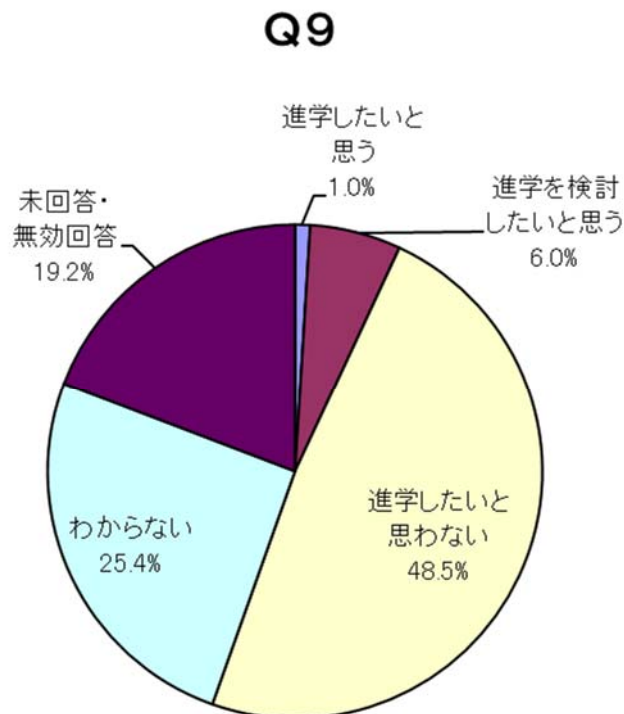
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q9)-1 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への進学意向(全体)

帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への進学意向(全体)は、「進学したいと思う」が76人(1.0%)、「進学を検討したいと思う」が461人(6.0%)で、何らかの進学の意向を持つこれらの回答者の合計が537人(7.0%)となり、進学意向は「進学したいと思う」で入学定員(40人)の1.9倍、「進学を検討する」まで含めると13.4倍となる。一方、「進学をしたくないと思わない」は3,753人(48.5%)となっている。また、1,964人(25.4%)が「わからない」と回答しており、Q8)と同様に、この層には帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)の養成する人材像や教育・研究の特色が十分に伝わっていない可能性がある。

Q9) 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)に進学したいと思いませんか。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	7,740	100.0%
進学したいと思う	76	1.0%
進学を検討したいと思う	461	6.0%
進学したいと思わない	3,753	48.5%
わからない	1,964	25.4%
未回答・無効回答	1,486	19.2%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q9)-2 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への進学意向(学年別)

帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への進学意向(学年別)は、「進学したいと思う」が1年生31人、2年生45人、「進学を検討したいと思う」が1年生249人、2年生212人となっている。一方、「進学をしたいと思わない」は1年生1,983人となっている。また、「わからない」は1年生1,046人、2年生917人となっている。

以上から、帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)開設年次の入学対象となる2年生の進学意向は、「進学したいと思う」45人のみで入学定員(40人)の1.1倍、「進学を検討したいと思う」212人まで含めると6.4倍となり、帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への進学需要があるといえる。

Q1)学年	全体平均		進学したいと思う		進学を検討したいと思う		関心層		dif	進学したいと思わない		わからない	
調査数	6,251	100.0%	76	100.0%	461	100.0%	537	100.0%		3,751	100.0%	1,963	100.0%
1年生	3,309	52.9%	31	40.8%	249	54.0%	280	52.1%	-0.8%	1,983	52.9%	1,046	53.3%
2年生	2,942	47.1%	45	59.2%	212	46.0%	257	47.9%	0.8%	1,768	47.1%	917	46.7%

上記は、表頭(表の上側)に「Q9)帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率-全体平均での比率

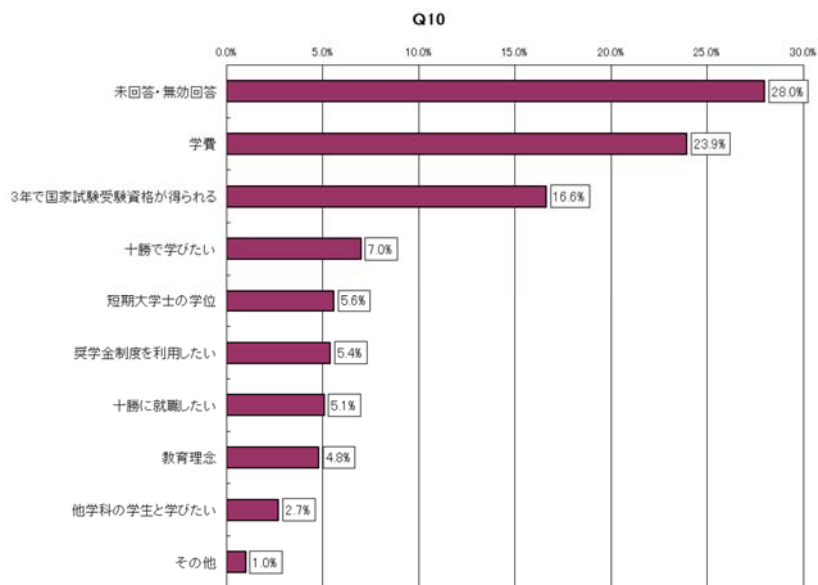
Q10) 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)へ進学する場合の重視ポイント

* 複数選択可(あてはまるもの全て)

回答者の帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)へ進学する場合の重視ポイントは、「学費」2,711人(23.9%)が最も多く、「3年で国家試験受験資格が得られる」1,882人(16.6%)、「十勝で学びたい」790人(7.0%)と続いている。

Q10) 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)に進学したいと考えた場合、重視するポイントは何ですか。

	回答数(人)	構成比(%)
総計	11,325	100.0%
学費	2,711	23.9%
短期大学士の学位	631	5.6%
他学科の学生と学びたい	305	2.7%
奨学金制度を利用したい	611	5.4%
十勝で学びたい	790	7.0%
3年で国家試験受験資格が得られる	1,882	16.6%
十勝に就職したい	573	5.1%
教育理念	542	4.8%
その他	111	1.0%
未回答・無効回答	3169	28.0%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q11) 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への意見・要望

Q11) 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)に対するご意見・ご要望をお聞かせください。

Q11) 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への意見・要望
家の近くにできたら便利で良いと思う。
近くだと行けるところが限られてるので良いと思いました。
近くでいいなと思いました。頑張ってください。
近くでかごについて学べる場所ができるのはいいと思いました。
近くにこのようなところがあるのはありがたいと思います。
近くにまた看護を学べるところができるのは看護をめざす人にはとても良いことだと思います。
近くに看護学科ができるのはいいと思った。
釧路から近い場所に看護学科ができるのはいいことだと思います。
帯広市から少し距離があるので、交通などは少し良くした方がいと思います。
比較的近い場所に看護を学べる学校が増えるのは、うれしいです。
友達が看護系を目指したいのに近くに学校がなといていたのですごくいいと思います。
学納金が他の学校より安い
学費が安ければ良いと思う。
学費が高そう
学費が北海道の他の大学よりも安く、修業年が3年なのですぐに現場に出られるのが良いと思います。
学費と授業料が高額だと思います。
学費はどれくらい
学費も安く、修業年も短いのでいいと思います
学費をどうかお願いします。
学費を安くしてほしい
管内の短大に看護学科ができるのは看護に進む人からしたら自宅から通えるのでお金もあまりかからないのでいいと思います。
授業料が高いと思います。
修業が3年なのはとても良いと思ったけど色々大変そう
奨学金制度を考えてほしいです。
他の学校に比べて学費が安くていいと思った。
他の看護系の大学よりも修業年が短くて学費も少し低めなのでいいと思います。
他の大学と比べて金額が安くて良いと思いました。
入学金、授業料が高い。
入学金、授業料が高い印象
入学金と授業料が高すぎる。
入学金をかなり安くするのいいと思う
【質問9】は、学校の理念等が影響して進学したいと思わないわけではなく、単に目指す方向が違うだけです。
1つの大学に色々な学科がふえていくと、色々な人が集まりやすくなるので良いと思います。
3年と4年の違いはなんですか？
あたらしくできるとなると、実績がないので少々心配です。
ある程度の病院と連携して幅広い実習をした方が良いこと。
イマイチどんな学科か伝わってこない。ただ、他の学科とのふれ合いは楽しそう。
いままでこのような学科がなかったことにおどろいた。
オンライン授業を取り入れてコロナ禍でも対応する授業を行ってほしいです。
どのような設備が整っているのか。
どれだけの設備があるのか明記した方が良くと思う。
なぜ看護職の男性比率を高めたいのですか？男女差別だと思います。女性が多くてもいいと思います。
パンフレットに分かりやすく、書いていたので、どんなことがあるのか、よくわかりました。

Q11) 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への意見・要望

まだ具体的じゃないのでよくわからない。
まだ進路を決めていないので分かりません。このアンケートも回答が変わるかもしれません
もう少しどうゆうことをするのかを詳しく説明してイラストと写真をもっとのせて字ばかりにしないで例えとかを入れてそれを写真とかにすればいいと思いました
リーフレットにももう少し詳しい情報を記載していただきたいです。
医療のレベルが上がることはいいことだと思います。
医療を学ぶことができ、今の時代に合う学校だと思いました。
医療系の人を増やすため、育てる機会があるのであれば、設立してもいいと思います。
医療系を目指す人たちには良い学校だと思いました。
医療従事者の不足は問題なのでよいと思う。
医療系を目指す人にとってはいいと思う。
学校はどのような所になるのか。病院は外来も含めてなのか
完成はしていないが、どのような設備があったり、どんな施設があるのかを、イメージでも良いから書くべきだ。
具体的にどんな授業があるのかを知りたい
今、コロナの影響で看護師が足りてないので、看護師を養成する学校が増えるのは、コロナが収束しても良いことだと思う
今、看護師が少なく、特に男性が少ないので、帯広大谷短期大学看護学科の考えはとても良いと思いました。
授業内容を知りたい。
設置するのはいいと思う。
設備が充実しているといいと思う。
設備の充実
設備も充実していい学校だと思った。
専門学校との違いはなんですか。気になります
他の看護学校となにか違うのか。
男子学生の比率を増やして、男性の看護職の割合を高めたいのは良いと思った。
男性の看護師を増やすという考え方が良いと思いました。
男性看護師を増やそうと目的をおいていることが良いと思う。
保健医療の課題に取り組んでいる人々と連携や協働することによってたくさんの事を学べると思いました。
3年で国家試験の受験資格が得られるというところに魅力を感じた。
3年で資格がとれるかが不安。
とれる資格が充実している。
とれる資格が多くて良いと思う
国家試験受験資格が得られるなら良いと思った。
市内にもう一つ看護学校があるが、それが2つになることで、看護師になりやすくなるのでいいことだと思った。
取得可能な資格が多いと思った。
取得可能な資格以外にも資格を取得できますか。
受験資格が得られるのは良いと思いました。
助産師の資格を取得できるようにしてほしい
助産師学校の受験資格を得るところが良いと思いました。
「専門職キャリアアップ事業に貢献したい」はいいと思いました。
就職分野が多くて良い！！
卒業後の活躍フィールドで保育所があるのが興味深いです。

Q11) 帯大谷短期大学 看護学科(仮称)への意見・要望
卒業後の行き先の幅が広く、様々な方向へのレールで進むことができるので、いいと思います。
卒業後は、どのような病院先で務めることができますか？
「人のいのちの物語」は見方によっては人のいのちを軽視しているように見えます。
地方から来る人は、療生活の設備がどうなってるのか知りたいです。また、その保障はありますか？
道内での医療系の短大は少ないので近くに出来るのは良いと思った。これからの進路実績で決まると思う。
寮、下宿などはどうなっていますか。
短大で学べるのはいいと思います
短大で看護のことを学びきれんのか不安である。
短大なのに、ちゃんと学べるんですか。
男子の比率を高めたいというところがいいなと思いました。
「地元創成」いいと思います。
オホーツク管内(北見)で設置してほしい。
このリーフレットではよくわかりませんが、地元を活用するなら、校外活動に力を入れるべきだと思います。
とてもいいと思った。帯広で学びたい人も多いと思うから。
なるべく入試の難易度を下げて、推薦は十勝重視がいい。
音更にあることを始めて知りました。
看護を十勝で学びたい人もいると思うので良いと思います。
看護学科が十勝にできてとても良いなと思いました。
十勝が好きな人にとっては、すごくいい環境で勉強できると思います！
十勝だめずらしそうなのでいいと思います。
十勝ではあまりないので設立するのはいいと思った。
十勝でも看護を学べるのはすごい良いと思います
十勝で学べるのはいいと思った。
十勝で看護を学べるのはいいと思います。
十勝で看護学を学べるのがいいなと思いました。
十勝で看護学科ができたことで様々な人が行きやすくなり進学を考える人がたくさんいると思う。
十勝で看護学科は少ないから良いと思った。
十勝で資格の取得が3年でできるというのは、うれしい。
十勝で専門的に医学について学べる学校を知らなかったのも、医学に興味がある人にとっては、とても良いと思う。
十勝という地元のことを重要視していて良いと思った。
十勝に医療系の学科がないからいいと思う
十勝に開設される看護学科が盛り上がるとういと思いました。
十勝に看護学科ができたなら、身近で看護を学べるので、良いと思いました。
十勝に看護学科ができて嬉しいです。
十勝に看護学科ができるのは、うれしいことなので、検討したいと思います。
十勝に新しい看護学科ができるのが良いと思います。
十勝に必要な学科だと思うので、ぜひとも実現してほしいです。
十勝の人が看護師を目指しやすくなるのでとても良いと思う。
十勝の名前が有名になるかもしれないし、自分にとっても嬉しい。
十勝管内で看護の学校が増えると選択支が増えると思うので期待しています。
十勝管内にまた看護について学べる場所が増えるのは良いなと思いました。
十勝管内に看護学科ができて良いと思います。
十勝管内に看護学科ができるのは良いと思います。
十勝管内に看護学科はなかったと思うので良い取り込みだと感じました

Q11) 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への意見・要望

十勝管内の看護学科ということで応援しています。
十勝管内の看護系はすごく人気でそうが良いと思う。
新しく帯広に看護系の大学ができれば、帯広など十勝管内の人も看護を目指しやすくなると思うので良いなと思います。
新たな挑戦だと思うので、看護学科を作ることで十勝を盛り上げてほしいです。
帯広に学科が増えて、少しでも人が集まってくれればうれしいと思う。
帯広は看護学校が少ないので、良いことだと思いました。
男性の割合を多くする考えはとて素晴らしいと思うし、地元創成という特色も良いと思う
地元で、看護を学ぶための選択しが増えるのはいいと思う。
地元で学びたいと思っている人には良いと感じた。
地元で学ぶことが出来るのは良いと思います。
地元で看護の仕事をしたい人のためにも良いと思います。
地元というものを重視されていてすごいと思った。
地元には色々な科目のある高校があるのはうれしいことだなあと思いました。
地元の医療の発展に尽力できる学校であることを期待しています。
地元を大切にしていることが伝わった。
もう少し人数を増やした方がいいと思います。
もう少し入学定員を、多くしてほしい。
もっと定員人数を増やしてもいいと思います。
もっと定員募集を増やしたらいいと思います。
定員が少ないと思います。なので少し多くした方が良くと思いました。
定員が少ないと思う。

4. 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への関心分析

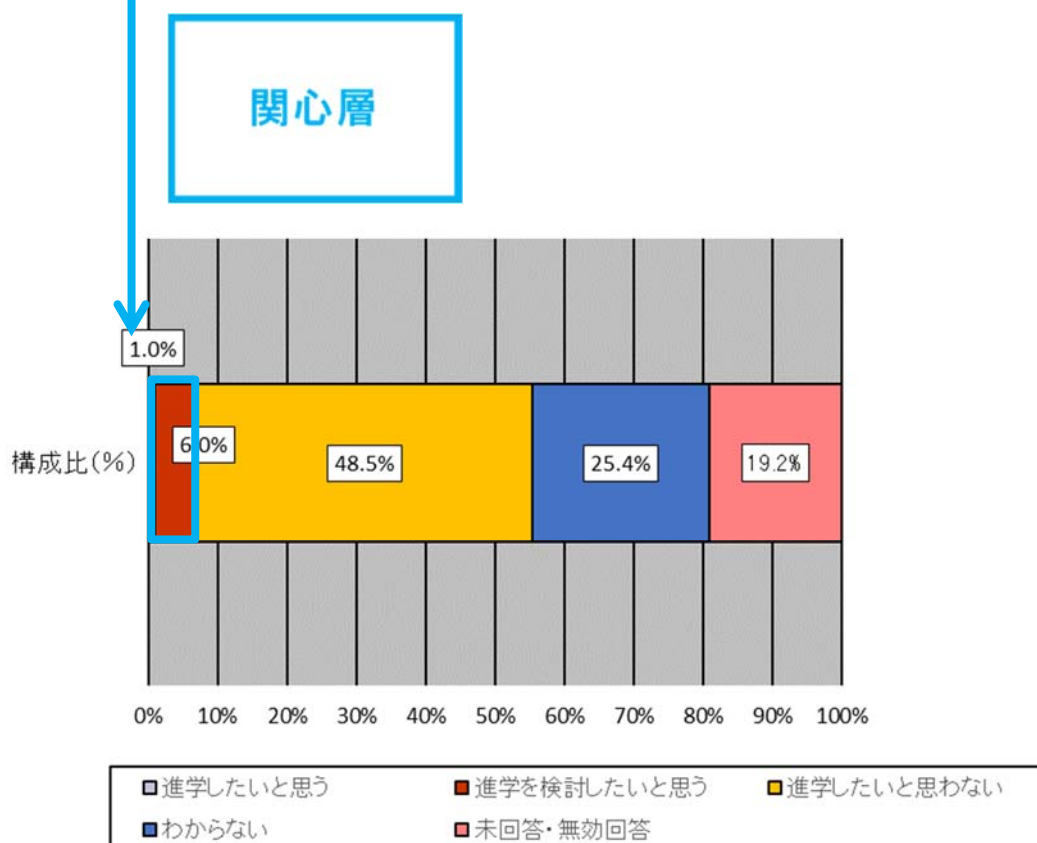
帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)の関心層

帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への関心を分析するため、次のとおり「関心層」を定義する。

Q9)において、「進学したいと思う」、「進学を検討したいと思う」を選択した合計 537 人(7.0%)を「関心層」と定義し、このうち特に高校2年生の「関心層」の傾向を分析する。

Q9) 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)に進学したいと思いますか。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	7,740	100.0%
進学したいと思う	76	1.0%
進学を検討したいと思う	461	6.0%
進学したいと思わない	3,753	48.5%
わからない	1,964	25.4%
未回答・無効回答	1,486	19.2%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*次頁以降の集計は、各設問から未回答・無効回答を除いて集計

Q1) 学年×Q9) 進学意向

関心層の学年は、「1年生」が280人(52.1%)、「2年生」が257人(47.9%)で「2年生」より「1年生」がやや多くなっている。また、dif(関心層での比率－全体平均での比率)では、関心層と学年で「2年生」を選択した層にわずかに相関性がみられる。

Q1) 学年と Q9) 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への進学意向との相関性

単位：(人) (%)

Q1)学年	全体平均		進学したいと思う		進学を検討したいと思う		関心層		dif	進学したいと思わない		わからない	
調査数	6,251	100.0%	76	100.0%	461	100.0%	537	100.0%		3,751	100.0%	1,963	100.0%
1年生	3,309	52.9%	31	40.8%	249	54.0%	280	52.1%	-0.8%	1,983	52.9%	1,046	53.3%
2年生	2,942	47.1%	45	59.2%	212	46.0%	257	47.9%	0.8%	1,768	47.1%	917	46.7%

上記は、表頭(表の上側)に「Q9) 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体平均での比率

Q2) 居住地域×Q9) 進学意向(高校2年生)

関心層の居住地域は、「十勝管内」169人(65.8%)が最も多く、「釧路・根室管内」55人(21.4%)、「オホーツク管内(網走・北見・紋別)」33人(12.8%)と続いている。また、dif(関心層での比率－全体平均での比率)では、関心層と居住地域で「オホーツク管内(網走・北見・紋別)」を選択した層にわずかに相関性がみられる。

Q2) 居住地域と Q9) 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への進学意向との相関性

単位：(人) (%)

Q2)居住地域	全体平均		進学したいと思う		進学を検討する		関心層		dif	進学したいと思わない		わからない	
調査数	2,934	100.0%	45	100.0%	212	100.0%	257	100.0%		1,762	100.0%	915	100.0%
十勝管内	1,931	65.8%	32	71.1%	137	64.6%	169	65.8%	-0.1%	1,244	70.6%	518	56.6%
釧路・根室管内	628	21.4%	5	11.1%	50	23.6%	55	21.4%	0.0%	319	18.1%	254	27.8%
オホーツク管内(網走・北見・紋別)	354	12.1%	8	17.8%	25	11.8%	33	12.8%	0.8%	186	10.6%	135	14.8%
その他	21	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-0.7%	13	0.7%	8	0.9%

上記は、表頭(表の上側)に「Q9) 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体平均での比率

Q3) 高校卒業後の進路×Q9) 進学意向(高校2年生)

関心層の高校卒業後の進路は、「専門学校への進学」114人(45.2%)が最も多く、「大学への進学」93人(36.9%)、「短期大学への進学」18人(7.1%)と続いている。また、dif(関心層での比率－全体平均での比率)では、関心層と高校卒業後の進路で「専門学校への進学」を選択した層に高い相関性がみられ、「短期大学への進学」を選択した層にやや相関性がみられる。

Q3) 高校卒業後の進路と Q9) 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への進学意向との相関性

単位：(人) (%)

Q3)高校卒業後の進路	全体平均		進学したいと思う		進学を検討する		関心層		dif	進学したいと思わない		わからない	
調査数	2,928	100.0%	43	100.0%	209	100.0%	252	100.0%		1,763	100.0%	913	100.0%
大学への進学	1,415	48.3%	17	39.5%	76	36.4%	93	36.9%	-11.4%	926	52.5%	396	43.4%
短期大学への進学	154	5.3%	3	7.0%	15	7.2%	18	7.1%	1.9%	91	5.2%	45	4.9%
専門学校への進学	813	27.8%	21	48.8%	93	44.5%	114	45.2%	17.5%	412	23.4%	287	31.4%
公共職業能力開発施設への進学	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
就職	460	15.7%	2	4.7%	16	7.7%	18	7.1%	-8.6%	299	17.0%	143	15.7%
その他	86	2.9%	0	0.0%	9	4.3%	9	3.6%	0.6%	35	2.0%	42	4.6%

上記は、表頭(表の上側)に「Q9) 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体平均での比率

Q4)-1 進学希望分野(第1希望)×Q9)進学意向(高校2年生)

関心層の進学希望分野(第1希望)は、第1位が「医療系(看護・技術)」145人(61.7%)で、第2位「文科系(教育・保育)」26人(11.1%)、第3位「医療系(医・歯・薬)」15人(6.4%)と続いている。また、dif(関心層での比率－全体平均での比率)では、関心層と進学希望分野(第1希望)で「医療系(看護・技術)」を選択した層に非常に高い相関性が見られる。

Q4)進学希望分野(第1希望)とQ9)帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への進学意向との相関性

単位：(人) (%)

Q4)進学希望分野(第1希望)	全体平均		進学したいと思う		進学を検討する		関心層		dif	進学したいと思わない		わからない	
	調査数												
調査数	2,374	100.0%	43	100.0%	192	100.0%	235	100.0%		1,417	100.0%	722	100.0%
医療系(看護・技術)	529	22.3%	30	69.8%	115	59.9%	145	61.7%	39.4%	174	12.3%	210	29.1%
医療系(医・歯・薬)	158	6.7%	4	9.3%	11	5.7%	15	6.4%	-0.3%	95	6.7%	48	6.6%
文科系(教育・保育)	339	14.3%	1	2.3%	25	13.0%	26	11.1%	-3.2%	206	14.5%	107	14.8%
文科系(文・語学・心理学)	190	8.0%	1	2.3%	8	4.2%	9	3.8%	-4.2%	137	9.7%	44	6.1%
文科系(法・社会学系)	117	4.9%	0	0.0%	3	1.6%	3	1.3%	-3.7%	84	5.9%	30	4.2%
文科系(経済・商学系)	234	9.9%	1	2.3%	6	3.1%	7	3.0%	-6.9%	152	10.7%	75	10.4%
理科系(理・工学系)	309	13.0%	2	4.7%	5	2.6%	7	3.0%	-10.0%	233	16.4%	69	9.6%
理科系(農・水産系)	96	4.0%	0	0.0%	2	1.0%	2	0.9%	-3.2%	72	5.1%	22	3.0%
家政系(食物・栄養・家政学)	134	5.6%	2	4.7%	8	4.2%	10	4.3%	-1.4%	91	6.4%	33	4.6%
芸術・体育系	268	11.3%	2	4.7%	9	4.7%	11	4.7%	-6.6%	173	12.2%	84	11.6%

上記は、表頭(表の上側)に「Q9)帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体平均での比率

Q4)-2 進学希望分野(第2希望)×Q9)進学意向(高校2年生)

関心層の進学希望分野(第2希望)は、第1位が「医療系(医・歯・薬)」58人(26.1%)で、第2位「医療系(看護・技術)」50人(22.5%)、第3位「文科系(教育・保育)」32人(14.4%)と続いている。また、dif(関心層での比率－全体平均での比率)では、関心層と進学希望分野(第2希望)で「医療系(医・歯・薬)」「医療系(看護・技術)」を選択した層に高い相関性がみられ、「家政系(食物・栄養・家政学)」「文科系(教育・保育)」を選択した層にやや相関性がみられる。

Q4)進学希望分野(第2希望)とQ9)帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への進学意向との相関性

単位：(人) (%)

Q4)進学希望分野(第2希望)	全体平均		進学したいと思う		進学を検討する		関心層		dif	進学したいと思わない		わからない	
	調査数	比率	調査数	比率	調査数	比率	調査数	比率		調査数	比率	調査数	比率
調査数	2,232	100.0%	40	100.0%	182	100.0%	222	100.0%		1,328	100.0%	682	100.0%
医療系(看護・技術)	229	10.3%	10	25.0%	40	22.0%	50	22.5%	12.3%	102	7.7%	77	11.3%
医療系(医・歯・薬)	290	13.0%	14	35.0%	44	24.2%	58	26.1%	13.1%	110	8.3%	122	17.9%
文科系(教育・保育)	278	12.5%	4	10.0%	28	15.4%	32	14.4%	2.0%	162	12.2%	84	12.3%
文科系(文・語学・心理学)	290	13.0%	2	5.0%	15	8.2%	17	7.7%	-5.3%	194	14.6%	79	11.6%
文科系(法・社会学系)	202	9.1%	2	5.0%	4	2.2%	6	2.7%	-6.3%	145	10.9%	51	7.5%
文科系(経済・商学系)	215	9.6%	0	0.0%	8	4.4%	8	3.6%	-6.0%	145	10.9%	62	9.1%
理科系(理・工学系)	157	7.0%	2	5.0%	7	3.8%	9	4.1%	-3.0%	115	8.7%	33	4.8%
理科系(農・水産系)	135	6.0%	0	0.0%	8	4.4%	8	3.6%	-2.4%	93	7.0%	34	5.0%
家政系(食物・栄養・家政学)	170	7.6%	6	15.0%	21	11.5%	27	12.2%	4.5%	89	6.7%	54	7.9%
芸術・体育系	266	11.9%	0	0.0%	7	3.8%	7	3.2%	-8.8%	173	13.0%	86	12.6%

上記は、表頭(表の上側)に「Q9)帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体平均での比率

Q5) 進学希望地域×Q9) 進学意向(高校2年生)

関心層の進学希望地域は、「札幌市や札幌近郊」108人(45.6%)が最も多く、「十勝管内」78人(32.9%)、「その他」38人(16.0%)と続いている。また、dif(関心層での比率－全体平均での比率)では、関心層と進学希望地域で「十勝管内」を選択した層に非常に高い相関性がみられる。

Q5) 進学希望地域と Q9) 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への進学意向との相関性

単位：(人) (%)

Q5)進学希望地域	全体平均		進学したいと思う		進学を検討する		関心層		dif	進学したいと思わない		わからない	
	調査数		人数	比率	人数	比率	人数	比率		人数	比率	人数	比率
調査数	2,477	100.0%	42	100.0%	195	100.0%	237	100.0%		1,490	100.0%	750	100.0%
東京・首都圏や大阪・関西圏	407	16.4%	3	7.1%	10	5.1%	13	5.5%	-10.9%	302	20.3%	92	12.3%
札幌市や札幌近郊	1,407	56.8%	14	33.3%	94	48.2%	108	45.6%	-11.2%	856	57.4%	443	59.1%
十勝管内	342	13.8%	18	42.9%	60	30.8%	78	32.9%	19.1%	160	10.7%	104	13.9%
その他	321	13.0%	7	16.7%	31	15.9%	38	16.0%	3.1%	172	11.5%	111	14.8%

上記は、表頭(表の上側)に「Q9) 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体平均での比率

Q6) 取得したい資格×Q9) 進学意向(高校2年生)

関心層の取得したい資格は、「看護師」167人(50.8%)が最も多く、「保健師」41人(12.5%)、「助産師」39人(11.9%)、と続いている。また、dif(関心層での比率－全体平均での比率)では関心層と取得したい資格で「看護師」を選択した層に高い相関性がみられ、「保健師」「助産師」「養護教諭」を選択した層にもやや相関性がみられる。

Q6) 取得したい資格と Q9) 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への進学意向との相関性

単位：(人) (%)

Q6)取得したい資格	全体平均		進学したいと思う		進学を検討する		関心層		dif	進学したいと思わない		わからない	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率		人数	比率	人数	比率
調査数	1,210	100.0%	68	100.0%	261	100.0%	329	100.0%		428	100.0%	453	100.0%
看護師	465	38.4%	37	54.4%	130	49.8%	167	50.8%	12.3%	123	28.7%	175	38.6%
保健師	107	8.8%	13	19.1%	28	10.7%	41	12.5%	3.6%	35	8.2%	31	6.8%
助産師	114	9.4%	5	7.4%	34	13.0%	39	11.9%	2.4%	33	7.7%	42	9.3%
養護教諭	45	3.7%	2	2.9%	16	6.1%	18	5.5%	1.8%	10	2.3%	17	3.8%
理学療法士	188	15.5%	6	8.8%	23	8.8%	29	8.8%	-6.7%	82	19.2%	77	17.0%
作業療法士	79	6.5%	2	2.9%	8	3.1%	10	3.0%	-3.5%	37	8.6%	32	7.1%
言語聴覚士	18	1.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-1.5%	8	1.9%	10	2.2%
診療放射線技師	78	6.4%	0	0.0%	10	3.8%	10	3.0%	-3.4%	41	9.6%	27	6.0%
臨床検査技師	66	5.5%	2	2.9%	5	1.9%	7	2.1%	-3.3%	35	8.2%	24	5.3%
その他	50	4.1%	1	1.5%	7	2.7%	8	2.4%	-1.7%	24	5.6%	18	4.0%

上記は、表頭(表の上側)に「Q9) 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体平均での比率

Q7) 進学先決定時の重視要因×Q9) 進学意向(高校2年生)

関心層の回答者の進学先決定時の重視要因は、第1位が「技術や資格の取得」153人(23.9%)で、第2位「学費(入学金・授業料)」130人(20.3%)、第3位「卒業後の就職実績」111人(17.3%)となっている。また、dif(関心層での比率－全体平均での比率)では、関心層と進学先決定時の重視要因で「学費(入学金・授業料)」「奨学金制度の有無」「実家からのアクセスや立地」などを選択した層にやや相関性がみられる。

Q7) 進学先決定時の重視要因と Q9) 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への進学意向との相関性

単位：(人) (%)

Q7)進学先決定時の重視要因	全体平均		進学したいと思う		進学を検討する		関心層		dif	進学したいと思わない		わからない	
調査数	6,614	100.0%	101	100.0%	540	100.0%	641	100.0%		3,985	100.0%	1,988	100.0%
技術や資格の取得	1,596	24.1%	20	19.8%	133	24.6%	153	23.9%	-0.3%	936	23.5%	507	25.5%
卒業後の就職実績	1,218	18.4%	16	15.8%	95	17.6%	111	17.3%	-1.1%	734	18.4%	373	18.8%
校舎・施設・設備の充実	783	11.8%	7	6.9%	54	10.0%	61	9.5%	-2.3%	501	12.6%	221	11.1%
設置形態(国公立か私立)	435	6.6%	5	5.0%	17	3.1%	22	3.4%	-3.1%	316	7.9%	97	4.9%
学費(入学金・授業料)	1,143	17.3%	19	18.8%	111	20.6%	130	20.3%	3.0%	649	16.3%	364	18.3%
奨学金制度の有無	317	4.8%	11	10.9%	39	7.2%	50	7.8%	3.0%	164	4.1%	103	5.2%
学校の伝統・教育理念	123	1.9%	3	3.0%	5	0.9%	8	1.2%	-0.6%	84	2.1%	31	1.6%
入試の難易度・入試科目	735	11.1%	12	11.9%	58	10.7%	70	10.9%	-0.2%	460	11.5%	205	10.3%
実家からのアクセスや立地	216	3.3%	8	7.9%	25	4.6%	33	5.1%	1.9%	113	2.8%	70	3.5%
その他	48	0.7%	0	0.0%	3	0.6%	3	0.5%	-0.3%	28	0.7%	17	0.9%

上記は、表頭(表の上側)に「Q9) 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体平均での比率

Q8) 興味・関心×Q9) 進学意向(高校2年生)

関心層の帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への興味・関心は、「興味・関心がある」116人(45.1%)、「ある程度の興味・関心がある」108人(42.0%)となっており、これらの合計が224人(87.1%)で9割近くとなっている。また、dif(関心層での比率－全体平均での比率)では、関心層と興味・関心で「興味・関心がある」「ある程度の興味・関心がある」を選択した層に非常に高い相関性がみられる。

Q8) 興味・関心と Q9) 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への進学意向との相関性

単位：(人) (%)

Q8)興味・関心	全体平均		進学したいと思う		進学を検討する		関心層		dif	進学したいと思わない		わからない	
	調査数	比率	調査数	比率	調査数	比率	調査数	比率		調査数	比率	調査数	比率
調査数	2,934	100.0%	45	100.0%	212	100.0%	257	100.0%		1,765	100.0%	912	100.0%
興味・関心がある	177	6.0%	37	82.2%	79	37.3%	116	45.1%	39.1%	16	0.9%	45	4.9%
ある程度の興味・関心がある	601	20.5%	3	6.7%	105	49.5%	108	42.0%	21.5%	263	14.9%	230	25.2%
あまり興味・関心がない	840	28.6%	0	0.0%	16	7.5%	16	6.2%	-22.4%	662	37.5%	162	17.8%
興味・関心がない	591	20.1%	1	2.2%	1	0.5%	2	0.8%	-19.4%	552	31.3%	37	4.1%
わからない	725	24.7%	4	8.9%	11	5.2%	15	5.8%	-18.9%	272	15.4%	438	48.0%

上記は、表頭(表の上側)に「Q9) 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体平均での比率

Q10) 進学する場合の重視ポイント×Q9) 進学意向(高校2年生) *Q10) 複数選択可(あてはまるもの全て)

関心層の帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)へ進学する場合の重視ポイントは、「学費」155人(27.4%)が最も多く、「3年で国家試験受験資格が得られる」127人(22.5%)、「十勝で学びたい」69人(12.2%)と続いている。また、dif(関心層での比率－全体平均での比率)では、関心層と進学する場合の重視ポイントで「奨学金制度を利用したい」「十勝で学びたい」を選択した層にやや相関性がみられ、「十勝に就職したい」を選択した層にわずかに相関性がみられる。

**Q10) 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)へ進学する場合の重視ポイントと
Q9) 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への進学意向との相関性**

単位：(人) (%)

Q10)進学したいと考えた場合の重視ポイント	全体平均		進学したいと思う		進学を検討する		関心層		dif	進学したいと思わない		わからない	
調査数	3,806	100.0%	105	100.0%	460	100.0%	565	100.0%		2,007	100.0%	1,234	100.0%
学費	1,234	32.4%	27	25.7%	128	27.8%	155	27.4%	-5.0%	665	33.1%	414	33.5%
短期大学士の学位	297	7.8%	9	8.6%	34	7.4%	43	7.6%	-0.2%	159	7.9%	95	7.7%
他学科の学生と学びたい	143	3.8%	4	3.8%	21	4.6%	25	4.4%	0.7%	72	3.6%	46	3.7%
奨学金制度を利用したい	313	8.2%	15	14.3%	52	11.3%	67	11.9%	3.6%	141	7.0%	105	8.5%
十勝で学びたい	384	10.1%	16	15.2%	53	11.5%	69	12.2%	2.1%	211	10.5%	104	8.4%
3年で国家試験受験資格が得られる	864	22.7%	20	19.0%	107	23.3%	127	22.5%	-0.2%	450	22.4%	287	23.3%
十勝に就職したい	291	7.6%	8	7.6%	39	8.5%	47	8.3%	0.7%	160	8.0%	84	6.8%
教育理念	231	6.1%	6	5.7%	21	4.6%	27	4.8%	-1.3%	122	6.1%	82	6.6%
その他	49	1.3%	0	0.0%	5	1.1%	5	0.9%	-0.4%	27	1.3%	17	1.4%

上記は、表頭(表の上側)に「Q9) 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体平均での比率

5. 補記

アンケート説明文 1/4

「地元創成」の
看護学

十勝で学ぶ

OBIHIRO OTANI
学校法人 帯広大谷学園

帯広大谷短期大学
看護学科
(仮称)

2023年(令和5年)4月
開設予定

帯広大谷短期大学 看護学科設置準備室

* 学科の名称、定員等の記載内容は現時点での計画であり変更することがあります。

 MARUZEN-YUSHODO

十勝の広い大地でしなやかな心を磨き 地域に貢献できる看護を学べます。

■ 学科の特色

- ・教育の特色として、「地元創成」に貢献する人の育成を基本理念に据え、社会との協調により、地元の自律的で持続的な創成に寄与しつつ、地元の人々の健康と生活に寄与することを目的とする。
教育課程の特色として、シチュエーション・ベースド・ラーニングを取り入れ、地域の方に模擬患者等の役割で協力を仰ぐことを考えている。また、実習先の協力病院の職員研修等と連携運動を図り、卒後教育を含めた専門職キャリアアップ事業に貢献したい。更には、地元を巻き込んだケアネットワーク（地域包括ケアシステム）の一つの核となるような短大を目指し地域貢献を図りたい。
- ・就業看護師のうち男性看護師の割合は7.8%（厚生労働省2018年衛生行政報告例より）の実態にあり、男子学生の比率を高め、看護職の男性比率を高めることに貢献したい。

● 取得可能な資格

看護師国家試験受験資格、保健師学校・助産師学校の受験資格、養護教諭養成学校の受験資格



短期大学で人文学・福祉学・栄養学を学ぶ学生と共に 多職種との協働・連携を楽しく学べます。

■ 学科の構成

入学定員（予定）	
看護学科	40人

収容定員（予定）	
看護学科	120人

～ 養成する学生像 ～

帯広大谷短期大学は、建学の精神並びに教育理念のもとに策定された学科並びに専攻・課程の学位授与の方針に基づき、学則に定める所定の単位を厳格な成績評価のもと修得した学生に対して短期大学士の学位を授与します。

【看護学科 ディプロマ・ポリシー】

1. 保健・医療・介護・福祉組織のチーム活動に必要なコミュニケーション能力を身につけている。
2. 豊かな感性を持ち人間の尊厳を守り、知識・技術・態度を統合して看護を実践できる。
3. 科学的根拠に基づき臨床推論し、看護の対象に合わせて創意工夫・応用ができる。
4. 看護の使命と倫理観に基づき看護専門職として自己研鑽を継続できる。
5. 国や民族・性別の枠を超えて多様な文化や価値観を受け入れ、国際的な健康課題を理解することができる。
6. 保健医療の課題に取り組む地域の人々と連携・協働する能力を身につけることができる。

～ 求める入学画像 ～

帯広大谷短期大学は、確かな教養の上に、社会人、職業人として自立し、社会の発展に寄与するとともに、「支えあいともに生きる社会」実現の担い手となる人を育てることを目標としています。

本学では、この目標の実現に向けて多様な入試方法を通して、次のような人を積極的に受け入れます。

1. 本学の教育を受けるにふさわしい基礎的な学力、適性及び目的意識を持つ人
2. 自らが、幅広い教養と視野を備えた豊かな人間性を求め、高める努力をしようとする人
3. 地域社会の発展に貢献できるよう、各学科の専門分野の知識や技能・技術を身につけることに意欲を持つ人

【看護学科 アドミッション・ポリシー】

看護学科は本学の建学の精神とナイチンゲールの思想に基づき、看護専門職の使命を果たし地域社会に貢献できる人の育成を目指しています。そのため、次のような人を積極的に受け入れます。

1. しなやかさ、あたたかさ、やさしさを備える心を持ち、看護の知識、技術を学ぶ意欲がある人
2. 他者と手を携え、看護を創り出し、工夫することに関心がある人
3. 対象となる人のいのちの物語に興味や関心を持ち続けられる人
4. 自分自身の心身を労わることができる人

～ 卒業後の活躍フィールド ～

● 想定される就職分野

・病院 ・介護老人保健施設 ・特別養護老人ホーム ・訪問看護ステーション ・保育所 ・学校 等

アンケート説明文 4/4

○ 学納金について - 初年度学納金(予定金額です) -

学科名	修業年	入学金	授業料等
看護学科	3年	200,000円程度	1,350,000円程度

- 北海道内における同分野の学部・学科の初年度学納金 -

大学名	学部・学科名	修業年	入学金	授業料等
札幌保健医療大学	保健医療学部看護学科	4年	300,000	1,500,000
天徳大学	看護栄養学部看護学科	4年	300,000	1,500,000
日本赤十字北海道看護大学	看護学部	4年	480,000	1,500,000
日本医療大学	保健医療学部看護学科	4年	300,000	1,500,000
北海道科学大学	保健医療学部看護学科	4年	200,000	1,500,000

※本大学の学費は各大学ホームページ掲載情報(2021年4月時点)

※この他に教科書代、実習費代、実習費等が必要となります。

※北海道内に看護科を設けている短期大学が少ないため、4年制大学との比較を行っています。

アクセスマップ

〒080-0335 北海道河東郡音更町希望が丘3番地3
【最寄駅】 JR帯広駅(帯広駅バスターミナルより25分)



○ お問い合わせ
 帯広大谷短期大学 看護学科設置準備室
 〒080-0335
 北海道河東郡音更町希望が丘3番地3

TEL : 0155-42-6048
 FAX : 0155-42-4499
 e-mail : inform@ooje.ac.jp
 URL : <http://www.ooje.ac.jp/>



公式ホームページ

アンケート調査票 1/2

帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)設置に係る高校生進学需要調査

帯広大谷短期大学では、これまでの学科に加えて、新たに看護学科(仮称)の設置に向けて準備を進めています。設置計画検討の参考として、皆さんの率直なご意見をお聞かせください。

【質問1】 あなたの学年は、どちらですか。いずれかに○を付けてください。

- 1 1年生 2 2年生

【質問2】 あなたのお住まいは、どちらですか。いずれかに○を付けてください。

- 1 十勝管内 2 釧路・根室管内
3 オホーツク管内(網走・北見・紋別) 4 その他()

【質問3】 あなたは高校卒業後どのような進路を考えていますか。1つ選び○を付けてください。

- 1 大学への進学 2 短期大学への進学 3 専門学校への進学
4 公共職業能力開発施設への進学 5 就職 6 その他()

*【質問4】 以降は、【質問3】で「1. 大学への進学」「2. 短期大学への進学」「3. 専門学校への進学」と回答した方のみお答えください。

【質問4】 あなたの進学したい分野は次のうちのどれですか。

第1希望、第2希望の該当する欄にそれぞれ1つずつ○を付けてください。

	分野	第1希望	第2希望
1	医療系(看護・技術)		
2	医療系(医・歯・薬)		
3	文科系(教育・保育)		
4	文科系(文・語学・心理学)		
5	文科系(法・社会学系)		
6	文科系(経済・商学系)		
7	理科系(理・工学系)		
8	理科系(農・水産系)		
9	家政系(食物・栄養・家政学)		
10	芸術・体育系		

【質問5】 質問3と質問4で選んだ進学先や分野へ実際に進学するとしたなら、次のどの地域を希望しますか。1つ選び○を付けてください。

- 1 東京・首都圏や大阪・関西圏
2 札幌市や札幌近郊
3 十勝管内
4 その他()

裏面へ続く⇒

アンケート調査票 2/2

【質問 6】 質問 4 で第 1 志望または第 2 志望で「医療系（看護・技術）」を選択した方にお聞きします。
あなたが取得したいと思う資格を次の中から 2 つまで 選び○をつけてください。

- | | | |
|-----------|-----------|----------|
| 1 看護師 | 2 保健師 | 3 助産師 |
| 4 養護教諭 | 5 理学療法士 | 6 作業療法士 |
| 7 言語聴覚士 | 8 診療放射線技師 | 9 臨床検査技師 |
| 10 その他() | | |

【質問 7】 あなたは進学先を決定する際に、どのような要因を重視しますか。次の中から 3 つまで 選び○をつけてください。

- | | | |
|----------------|---------------|----------------|
| 1 技術や資格の取得 | 2 卒業後の就職実績 | 3 校舎・施設・設備の充実 |
| 4 設置形態(国公立か私立) | 5 学費(入学金・授業料) | 6 奨学金制度の有無 |
| 7 学校の伝統・教育理念 | 8 入試の難易度・入試科目 | 9 実家からのアクセスや立地 |
| 10 その他() | | |

次の【質問 8】以降は、別紙リーフレットをご覧ください、ご記入ください。

帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)について

【質問 8】 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)が目指すイメージについてどの程度、興味・関心がありますか。次の中から 1 つ選び○をつけてください。

- | | | |
|------------|-----------------|---------------|
| 1 興味・関心がある | 2 ある程度の興味・関心がある | 3 あまり興味・関心がない |
| 4 興味・関心がない | 5 わからない | |

【質問 9】 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)に進学したいと思いますか。次の中から 1 つ選び○をつけてください。

- | | | | |
|------------|---------------|--------------|---------|
| 1 進学したいと思う | 2 進学を検討したいと思う | 3 進学したいと思わない | 4 わからない |
|------------|---------------|--------------|---------|

【質問 10】 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)に進学したいと考えた場合、重視するポイントは何ですか。次の中からあてはまるものを全て選び○をつけてください。

- | | | |
|---------------|------------|--------------------|
| 1 学費 | 2 短期大学士の学位 | 3 他学科の学生と学びたい |
| 4 奨学金制度を利用したい | 5 十勝で学びたい | 6 3年で国家試験受験資格が得られる |
| 7 十勝に就職したい | 8 教育理念 | 9 その他() |

【質問 11】 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)に対するご意見・ご要望をお聞かせください。

質問は以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。

帯広大谷短期大学看護学科設置準備室

【資料10】

令和3年度北海道内看護系私立大学と全国看護系短期大学の初年次学生納付金一覧

【北海道内看護系私立大学】

	学校／学科名称	初年次学納金		
		入学金	授業料等	合計
1	札幌保健医療大学保健医療学部看護学科	300,000	1,500,000	1,800,000
2	北海道医療大学看護福祉学部看護学科	300,000	1,300,000	1,600,000
3	北海道文教大学人間科学部看護学科	300,000	1,400,000	1,700,000
4	天使大学看護栄養学部看護学科	300,000	1,595,000	1,895,000
5	日本赤十字北海道看護大学看護学部	450,000	1,500,000	1,950,000
6	日本医療大学保健医療学部看護学科	300,000	1,600,000	1,900,000
7	旭川大学保健福祉学部保健看護学科	200,000	1,500,000	1,700,000
8	北海道科学大学保健医療学部看護学科	200,000	1,500,000	1,700,000
初年次学納金平均金額				1,780,625

【全国看護系短期大学】

	学校／学科名称	初年次学納金		
		入学金	授業料等	計
1	仙台赤門短期大学看護学科	200,000	1,350,000	1,550,000
2	仙台青葉学院短期大学看護学科	250,000	1,400,000	1,650,000
3	埼玉医科大学短期大学看護学科	400,000	1,100,000	1,500,000
4	神奈川歯科大学短期大学部看護学科	300,000	1,350,000	1,650,000
5	富山福祉短期大学看護学科	200,000	1,130,000	1,330,000
6	飯田女子短期大学看護学科	250,000	1,200,000	1,450,000
7	(旧)松本短期大学看護学科	200,000	1,100,000	1,300,000
8	岐阜保健大学短期大学部看護学科	200,000	1,100,000	1,300,000
9	平成医療短期大学看護学科	200,000	1,000,000	1,200,000
10	藍野大学短期大学部第二看護学科	250,000	1,350,000	1,600,000
11	大阪信愛学院短期大学看護学科	200,000	1,530,000	1,730,000
12	白鳳短期大学総合人間学科看護学専攻	200,000	1,470,000	1,670,000
13	川崎医療短期大学看護科	250,000	950,000	1,200,000
14	高知学園短期大学看護学科	200,000	980,000	1,180,000
初年次学納金平均金額				1,450,714

【資料11】

新学科設置計画に係る
ニーズ調査報告書（事業所編）

丸善雄松堂株式会社
Research & Innovation 本部
コンサルティング部

 **MARUZEN-YUSHODO**

目次

1. 調査概要	2
2. 調査・分析結果の要旨	3
3. 全体集計結果	6
4. 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への関心分析	17
5. 採用需要推計	24
6. 補記	26

1. 調査概要

(1) 調査目的

帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)設置計画検討のため、本アンケート調査により事業所の人材需要等を把握し、設置計画の基礎資料とすることを目的とする

(2) 調査対象

設置が検討される新学科の専攻分野から選定した卒業生の就職先として考えられる事業所

(3) 実施時期

2021年7月14日～2021年8月25日

(4) 回収状況

本調査では499事業所を対象にアンケート調査票を配布し、232件のアンケートを回収することが出来た(回収率46.5%)

(5) 調査方法

調査票による定量調査(アンケート調査)

(6) 利用調査票

添付アンケート調査票参照

2. 調査・分析結果の要旨

(1) 調査結果の要旨

①事業所の種別

回答事業所の種別は、「病院、医院、診療所」101 事業所 (43.5%) が最も多く、「その他」64 事業所 (27.6%)、「訪問看護ステーション」35 事業所 (15.1%) と続いている。

②事業所の所在地

回答事業所の所在地は、「十勝管内」170 事業所 (73.3%) が最も多く、7 割以上となっており、「釧路・根室管内」32 事業所 (13.8%)、「オホーツク管内(網走・北見・紋別)」26 事業所 (11.2%) と続いている。

③事業所の規模

回答事業所の規模は、「50 名未満」136 事業所 (58.6%) が最も多く、6 割近くとなっており、「100-299 名」43 事業所 (18.5%)、「50-99 名」35 事業所 (15.1%) と続いている。

④過去 3 年間の採用人数

回答事業所の過去 3 年間の採用人数は、下記のとおり。

2019年度			2020年度			2021年度		
	事業者数(事業所)	採用人数(人)		事業者数(事業所)	採用人数(人)		事業者数(事業所)	採用人数(人)
合計	208	759	合計	210	745	合計	209	610

⑤人材充足状況

回答事業所の人材充足状況は、「不足している」「やや不足している」が各 55 事業所 (23.7%) で、合計 110 事業所 (47.4%) となり、程度の差はあるものの 5 割近くの事業所で人材が不足していると回答している。一方、「充足している」は 48 事業所 (20.7%) で、「ある程度充足している」は 63 事業所 (27.2%) となっており、これらの合計は 111 事業所 (47.9%) となっている。

⑥人材採用の際の重視要因

回答事業所の人材採用の際の重視点は、「コミュニケーション能力」197 事業所 (30.4%) が最も多く、「チームで働く力」144 事業所 (22.2%)、「課題発見・課題解決能力」「自己管理能力」各 72 事業所 (11.1%) と続いており、「語学力」「国際感覚(広い視野・価値観)」各 0 事業所 (0.0%) や「専攻分野の基礎学力」26 事業所 (4.0%) 等についてはあまり重視されていない。

⑦帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)卒業生への期待

回答事業所の帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)の卒業生への期待について、「チームの一員として行動できる看護職」195 事業所(22.9%)が最も多く、「知識・技術・態度を統合して実践できる看護職」が 172 事業所(20.2%)、「基礎的知識・技術を対象に合わせて創意工夫・応用できる看護職」153 事業所(18.0%)と続いている。

⑧帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)卒業生の採用意向・人数

回答事業所の帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)卒業生の採用意向人数は、「採用したい」が 35 事業所(うち 4 事業所は未回答)71 人、「採用を検討したい」が 42 事業所(うち 7 事業所は未回答)65 人となっており、これらの合計は人数を回答した事業所のみで 136 人となっている。

(2)分析結果の要旨

採用意向で人数が未回答であった事業所の採用希望人数を保守的に1事業所当たり1人と仮定した場合、調査結果に基づく帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)卒業生の推計採用意向人数は、「採用したい」のみで75人となり入学定員(40人)の1.9倍、「採用を検討したい」まで含めると147人で入学定員(40人)の3.7倍となる。以上から、帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)卒業生に対する一定の採用需要があるといえる。(P24)

加えて、「採用したい」、「採用を検討したい」と回答した関心層77事業所の採用実績合計は、2019年度461人(60.8%)、2020年度452人(61.0%)、2021年度387人(63.6%)となっており、減少傾向にあるもののいずれも380人以上の採用人数で推移していることから、関心層の事業所において一定の継続的な人材の採用需要があるといえる。

帯広大谷短期大学卒業生への期待について、「Q7 卒業生への期待」では「チームの一員として行動できる看護職」「知識・技術・態度を統合して実践できる看護職」「基礎的知識・技術を対象に合わせて創意工夫・応用できる看護職」等が期待されている。(P12)

また、「Q6 人材採用の際の重視点」では多くの事業所が「コミュニケーション能力」「チームで働く力」「課題発見・課題解決能力」を重視しており(P11)、帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)の教育・研究の特色は社会需要に答えるものであるといえる。

以上から、帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)の教育理念に基づき、上記のような卒業生への期待や人材採用時の重視要因を反映した優秀な人材を輩出し、卒業生が社会で活躍することで、帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)の評価を高め、就職先となる施設・事業所との連携を強化していくことが重要な成功要因になると考える。

また、「Q8)-1 採用意向」では、回答した232事業所のうち123事業所(53.0%)が「わからない」と回答している。この層は帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)の教育・研究の特色や養成する人材像(DP)の質の保証について、現状の説明では十分に理解されていない可能性が窺われる。(P13)

従って、就職先となる病院・事業所との連携を強化したうえで、卒業生に身に付けさせる能力をどのような教育・研究によって身に付けさせるのか具体的に説明していくことも今後の課題となる。

3. 全体集計結果

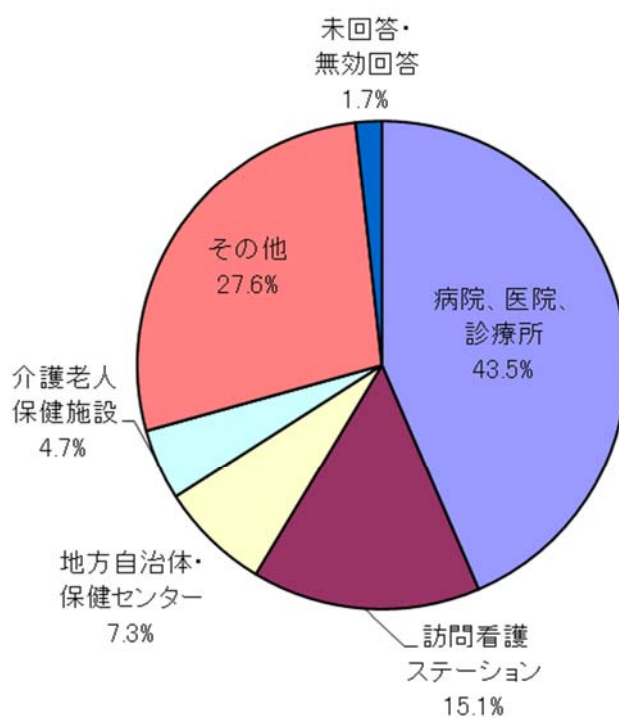
Q1) 事業所の種別

回答事業所の種別は、「病院、医院、診療所」101 事業所 (43.5%) が最も多く、「その他」64 事業所 (27.6%)、「訪問看護ステーション」35 事業所 (15.1%) と続いている。

Q1) 貴事業所の主たる種別は次のどれですか。

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	232	100.0%
病院、医院、診療所	101	43.5%
訪問看護ステーション	35	15.1%
地方自治体・保健センター	17	7.3%
介護老人保健施設	11	4.7%
保健所	0	0.0%
その他	64	27.6%
未回答・無効回答	4	1.7%

Q1



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

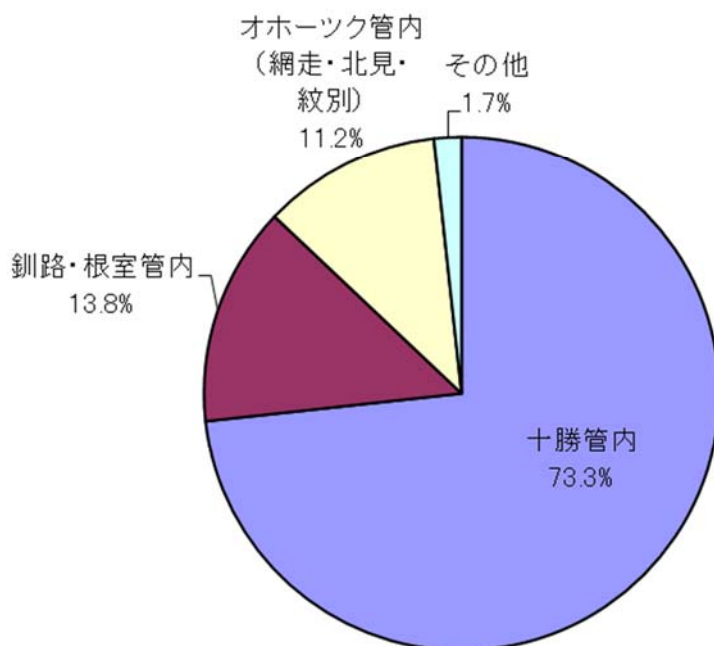
Q2) 事業所の所在地

回答事業所の所在地は、「十勝管内」170 事業所 (73.3%) が最も多く、7 割以上となっており、「釧路・根室管内」32 事業所 (13.8%)、「オホーツク管内 (網走・北見・紋別)」26 事業所 (11.2%) と続いている。

Q2) 貴事業所の主たる所在地をお教えてください。

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	232	100.0%
十勝管内	170	73.3%
釧路・根室管内	32	13.8%
オホーツク管内(網走・北見・紋別)	26	11.2%
その他	4	1.7%

Q2



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

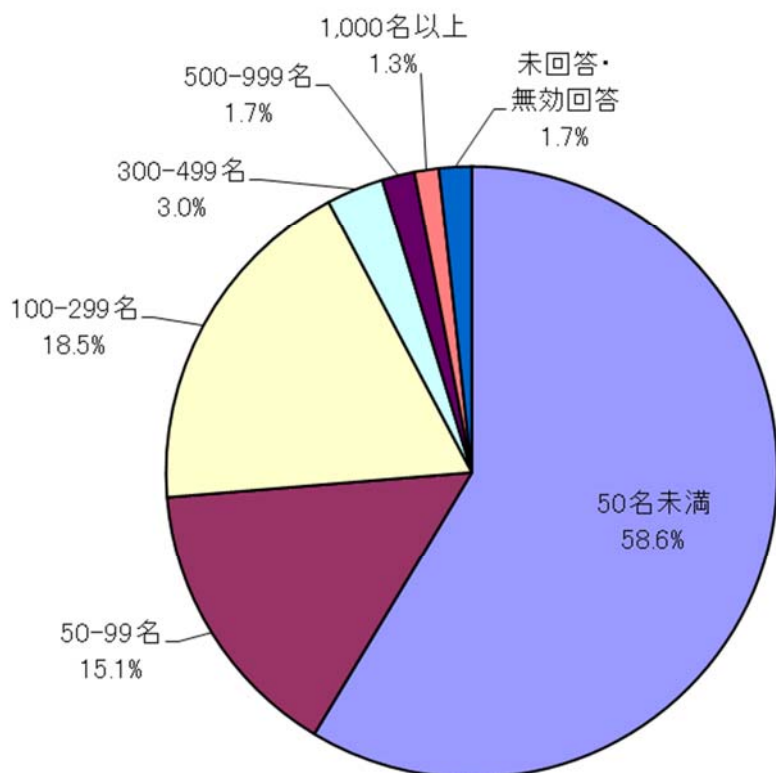
Q3) 事業所の規模

回答事業所の規模は、「50名未満」136事業所(58.6%)が最も多く、6割近くとなっており、「100-299名」43事業所(18.5%)、「50-99名」35事業所(15.1%)と続いている。

Q3) 貴事業所の従業員数について、該当するもの1つに○をつけてください。

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	232	100.0%
50名未満	136	58.6%
50-99名	35	15.1%
100-299名	43	18.5%
300-499名	7	3.0%
500-999名	4	1.7%
1,000名以上	3	1.3%
未回答・無効回答	4	1.7%

Q3



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

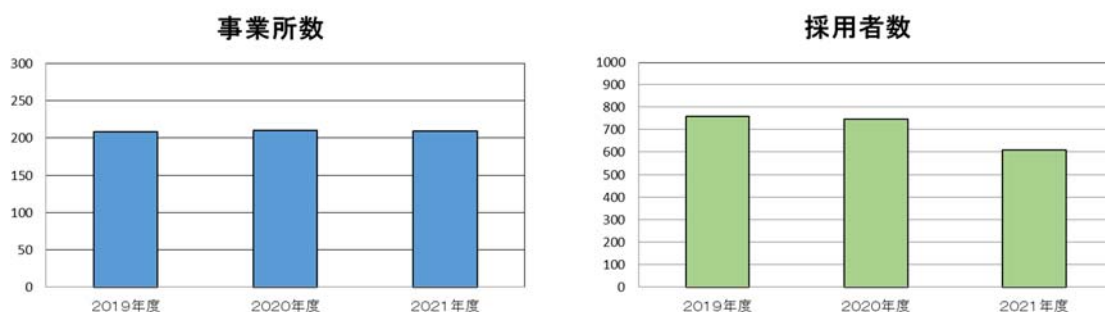
Q4) 過去3年間の採用人数

回答事業所の過去3年間の看護職採用人数は、2019年度208事業所759人、2020年度210事業所745人、2021年度209事業所610人で、2019年度から2021年度減少傾向がみられるものの、いずれも600人以上を採用していることがわかる。

Q4) 貴事業所では、過去3年間で看護職を何人採用（中途採用を含む）されましたか。

* 詳細がご不明な場合は概数をご記入ください。

2019年度		2020年度		2021年度				
事業者数(事業所)	採用人数(人)	事業者数(事業所)	採用人数(人)	事業者数(事業所)	採用人数(人)			
合計	208	759	合計	210	745	合計	209	610



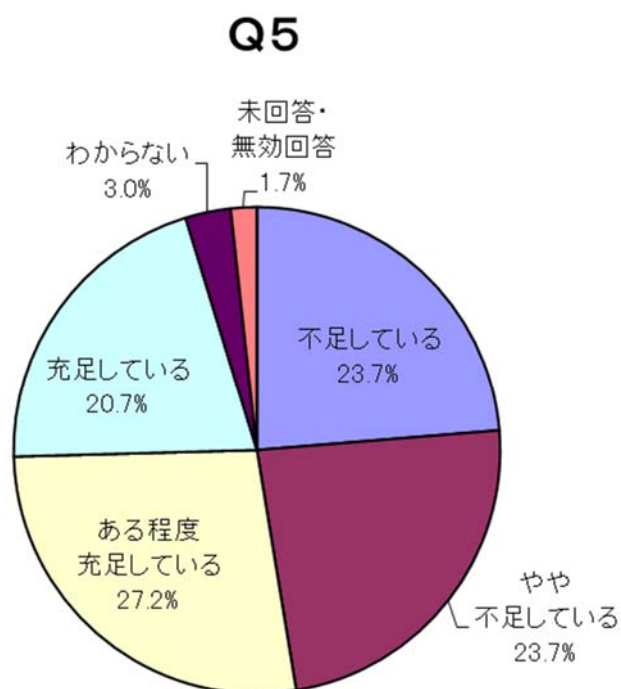
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q5) 人材充足状況

回答事業所の人材充足状況は、「不足している」「やや不足している」が各 55 事業所 (23.7%) で、合計 110 事業所 (47.4%) となり、程度の差はあるものの 5 割近くの事業所で人材が不足していると回答している。一方、「充足している」は 48 事業所 (20.7%) で、「ある程度充足している」は 63 事業所 (27.2%) となっており、これらの合計は 111 事業所 (47.9%) となっている。

Q5) 貴事業所では、看護職の充足状況についてどのようにお考えですか。

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	232	100.0%
不足している	55	23.7%
やや不足している	55	23.7%
ある程度充足している	63	27.2%
充足している	48	20.7%
わからない	7	3.0%
未回答・無効回答	4	1.7%



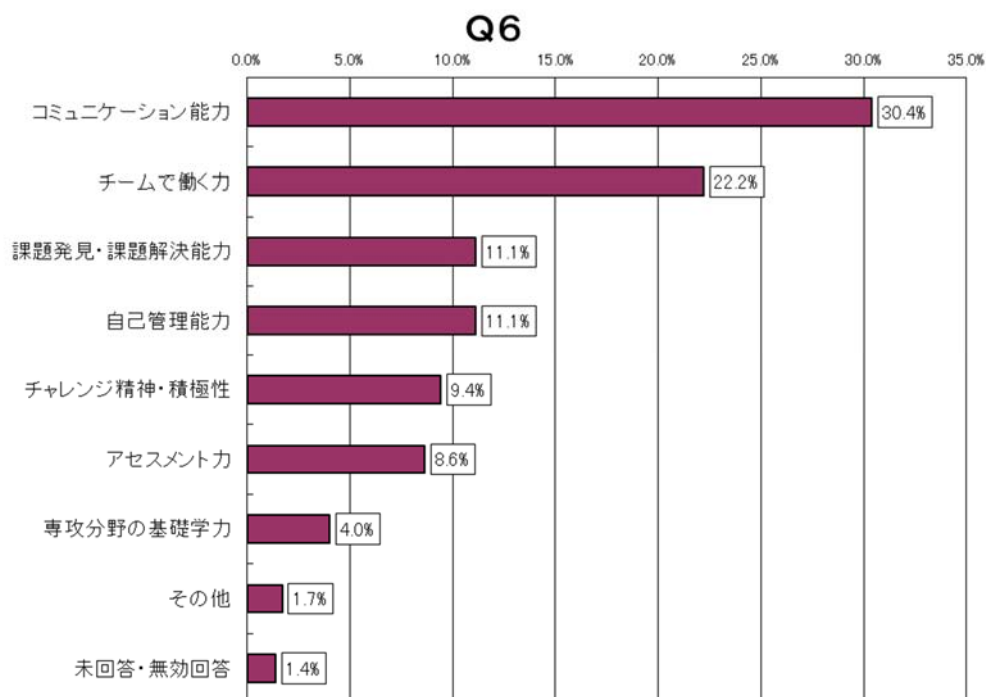
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q6) 人材採用の際の重視点 *複数選択可(3つまで)

回答事業所の人材採用の際の重視点は、「コミュニケーション能力」197 事業所(30.4%)が最も多く、「チームで働く力」144 事業所(22.2%)、「課題発見・課題解決能力」「自己管理能力」各 72 事業所(11.1%)と続いており、「語学力」「国際感覚(広い視野・価値観)」各 0 事業所(0.0%)や「専攻分野の基礎学力」26 事業所(4.0%)等についてはあまり重視されていない。

Q6) 貴事業所では人材採用の際、どのような点を重視されていますか。

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	648	100.0%
コミュニケーション能力	197	30.4%
語学力	0	0.0%
課題発見・課題解決能力	72	11.1%
チームで働く力	144	22.2%
チャレンジ精神・積極性	61	9.4%
国際感覚(広い視野・価値観)	0	0.0%
アセスメント力	56	8.6%
専攻分野の基礎学力	26	4.0%
自己管理能力	72	11.1%
その他	11	1.7%
未回答・無効回答	9	1.4%



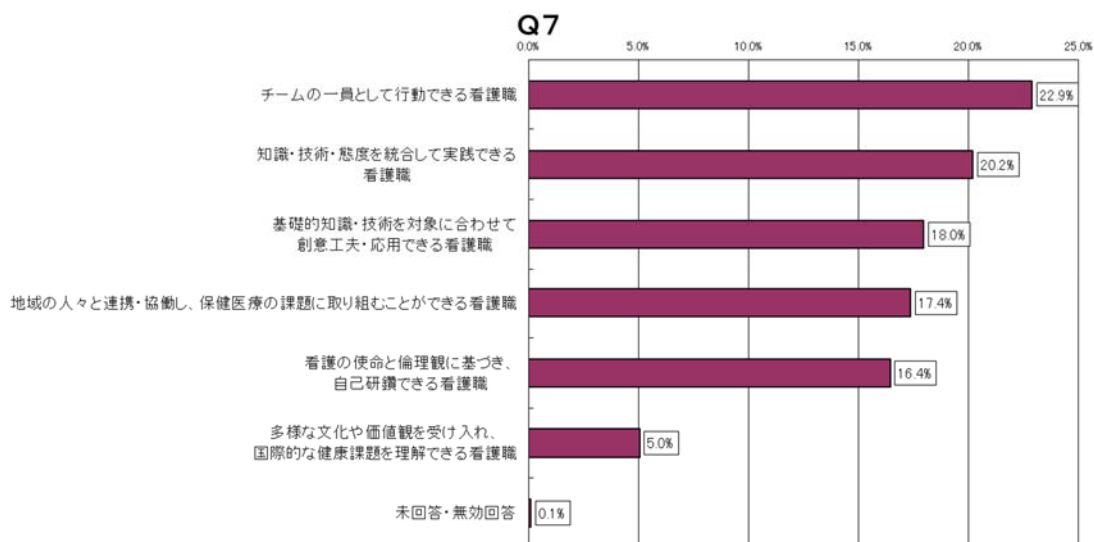
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q7) 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)の卒業生への期待 * 複数選択可(該当するもの全て)

回答事業所の帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)の卒業生への期待について、「チームの一員として行動できる看護職」195 事業所(22.9%)が最も多く、「知識・技術・態度を統合して実践できる看護職」が172 事業所(20.2%)、「基礎的知識・技術を対象に合わせて創意工夫・応用できる看護職」153 事業所(18.0%)と続いている。

Q7) 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)の卒業生に、どのようなことを期待しますか。

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	852	100.0%
知識・技術・態度を統合して実践できる看護職	172	20.2%
チームの一員として行動できる看護職	195	22.9%
基礎的知識・技術を対象に合わせて創意工夫・応用できる看護職	153	18.0%
看護の使命と倫理観に基づき、自己研鑽できる看護職	140	16.4%
多様な文化や価値観を受け入れ、国際的な健康課題を理解できる看護職	43	5.0%
地域の人々と連携・協働し、保健医療の課題に取り組むことができる看護職	148	17.4%
未回答・無効回答	1	0.1%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

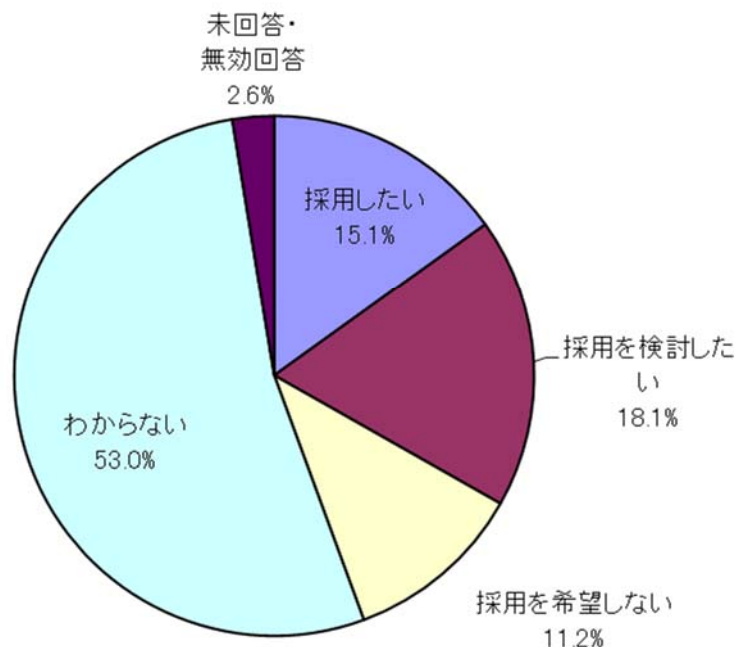
Q8)-1 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)卒業生の採用意向

回答事業所の帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)卒業生の採用意向については、「採用したい」が35事業所(15.1%)、「採用を検討したい」が42事業所(18.1%)でこれらの合計が77事業所(33.2%)となり、3割以上の事業所が帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)卒業生に対する何らかの採用意向を持っていることがわかる。一方、「採用を希望しない」は26事業所(11.2%)、123事業所(53.0%)が「わからない」と回答している。

Q8)-1 貴事業所では、帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)卒業生の看護師採用について、どのようにお考えですか。

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	232	100.0%
採用したい	35	15.1%
採用を検討したい	42	18.1%
採用を希望しない	26	11.2%
わからない	123	53.0%
未回答・無効回答	6	2.6%

Q8



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q8)-2 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)卒業生の採用意向人数

回答事業所の帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)卒業生の採用意向人数は、「採用したい」が35事業所(うち4事業所は未回答)71人、「採用を検討したい」が42事業所(うち7事業所は未回答)65人となっており、これらの合計は人数を回答した事業所のみで136人となっている。

Q8)-2 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)卒業生の看護師採用意向人数

Q8)採用意向	採用希望人数内訳(人)	
採用したい	35事業所→計71人	4事業所→未回答
採用を検討したい	42事業所→計65人	7事業所→未回答

上記の数値は帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)卒業生の採用需要をまとめたもので、「採用したい」のみで入学定員(40人)の1.8倍、「採用を検討したい」まで含めると3.4倍となる。以上から、帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)卒業生に対する一定の採用需要があるといえる。

Q9) 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への意見・要望

Q9) 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)設置計画に対するご意見・ご要望をお聞かせください。

Q9) 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への意見・要望
ここ十勝で新しい学科が出来る事を心からうれしく思います。十勝の医療、福祉の分野でのご活躍を心待ちにしております。
やさしく心のあたたかい、看護師をよろしくお願ひ致します。頑張ってください。
音更町から看護を志す人材が育っていくことに大いに期待します。
過疎地で働く看護師が不足している中、戦力として迎えられるスタッフが増えることを期待したいです。
看護学校の生徒さんより2-3才年令が上ですから、しっかりとした人への対応が、期待できると思われま
す。
看護大学まで発展してほしいです。(現場職員高令化しています)(助産師・保健師のコース)
期待しています。
特養では日々のケアだけでなく、通院の送迎やご家族とのやりとりも看護師の大切な役割です。未来の職員
となる生徒さん達に期待しています！
必要だと思います！！
未来の看護師を育てるため、微力ながら少しでも力になれば幸いです。
未来を担う看護職の育成に期待しております。
グループホーム単独では採用はありませんが、系列の老健、訪看、通所では採用したいと思っています。・
グループホームでの看護師採用はありませんか、看護師資格を持ち、介護職として働いていただけるので
あればグループホームで採用させていただきます。
介護分野に興味があるのか知りたいです。
新卒採用は現場にとってエネルギーを使いますが一方で刺激もあり教育面においてメリットが双方にとって
大きいと思います。ただ、人材面で余裕がないと厳しい現実もあり、経験者が欲しいというのが本音でしょう
か慢性的な看護師不足の解消のため貴校への期待は大きいと思います。
新卒者への指導体制が確立されていないため採用については現時点では採用を希望しないとさせて頂きま
した。今後指導体制の確立へ努力していきたいと考えております。
当法人(障がい者支援)のサービスでも、将来医的ケアが24時間必要な利用者の受け入れを考えておりま
す。看護師を中心とした医療従事者を地元で育成することは、地域の生活維持に必要なだと思います。
自分自身の利点・欠点を理解でき、自身の問題解決をできる育成。自身の欠点を解決できず、問題の蓄積
がメンタルへの影響につながる若手ナースが多い。
福祉の倫理についても学び、高齢者の価値感を受け入れつつ、押しつけにならないような看護職。
医療現場だけでなく、入所者・利用者の生活の場を支える、施設看護師介護員等と連携できる看護師の育
成を期待します。
介護科がある強みとして、施設看護師としてのカリキュラムを独自に入れてほしい。それは、このカリキュラ
ムを通して、人を医療の面からだけでなく、生活面を考慮して対応できる看護師を育ててほしいと期待して
いる。
学力ばかりでなく質問7の内容を大切にしてほしいと思います
看護学塾の在宅実習受入を行っているが、病院看護がベースになっている。在宅や施設で働くNSの役割に
ついて身につく力を養ってほしいです。
看護学生は、勉強(専門の知識)、実習と、ストレスが多いと言われています。実際、私自身もそう感じまし
た。そこで学校関係者(講師等)が、生徒が潰れてしまわないような環境作り、フォロー、気づきができる体制、
学校を切望いたします。
看護師だけでなく、様々な職種と協働することが求められています。地域で生活する患者様のために、患者
様を守る行動のとれるNSを育ててほしいです。
釧路の近くに看護学科ができることは大変ありがたいことです。私自身進学したことで人間性や思いやる心
を学び変わることができました。そのような学びの場になってもらえることが一看護師の意見です。
個々人は有能でも多職種との連携するためのコミュニケーション能力が不足している看護師が多い。チーム
でアセスメントする看護師育成をお願いします

Q9) 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への意見・要望
高齢者施設で生活される入居者様は多様な疾病を患った方達が多くいらっしゃいます。その中で暮らしの安定を図る上でも医療との連携は必要不可欠にあります。又今後高齢者人口が増加していく中で、若く、活発で、心意気を持った医療従事者の皆様の福祉分野での活躍を心より期待いたします。
今後、看護師さんの需要はますます多くなると思われます。又、患者さん、御家族、地域から求められることも多岐にわたり、責任も重くなると思いますが、地域に貢献出来るような人材が、育つと良いと思います。期待しています。
今後、訪問看護は重視されていく分野だと思えます入院～在宅迄を一連として見ていける様、お願い致します新設で大変でしょうが、期待しております
実習病院は確保されているのでしょうか？
新卒看護師を採用したいと考えていますが、受け入れ(卒後教育を充実)について、整える必要があります。非常勤で、老年看護の講義を持たせて下さい、
保健師の要請を希望します。
保健師職なら採用を検討させていただきます。
訪問看護をやりたい、訪問看護に適した人材を育ててほしい
採用に関しては、事業所に決定権は、ない為、本社に伝えます。
在宅医療や訪問看護に携われる看護師を育成してもらいたい。
自治体として採用希望は保健、福祉分野の保健師となっており看護職(師)の採用予定はありません
社会人としての基礎を育て、地域に長く残って医療を支えていく人材を育成して頂きたい。
十勝・道東に根ざす活動を期待します。
十勝で活躍してくれる人材を希望する事と、積極的に自己学習する習慣を身につけて欲しい。
十勝で働く人材を育てることを目的とするならば、少人数でも保健師の養成をして頂けるとうれしいです。(帯広高看が閉科以降、人材が確保しにくいのが課題です)
十勝に看護学科が増えることは、とても素晴らしいことです。地元で学びたい学生が多くいると思います。
十勝の看護師不足を補えると期待します。また管理栄養士の養成にも力を入れて頂けると助かります。
十勝の大地のごとく、明るく健全な若い力に期待しています。デジタル化がいくらすすんだとしても看護職は今も昔もアナログな部分が必要だと思っています。人として、大きく成長して欲しいです！！
十勝管内の医療・看護の発展向上のために人材育成して下さることにとっても期待しています。可能な限り十勝で活躍していただきたい
是非オホーツク方面からも育成をして頂きたいです。
帯広で多くの方が働いてほしいです。
地域の住民の方々の健康維持・増進に活躍して頂けるナースの育成に尽力頂きたいと思えます。
地域の中で求められる看護職としてキャリア形成できる人材を育成してほしいです。期待しています。
地域医療を学習し、医療、福祉の連携、協働の重要性を学んで、医療以外にも福祉関係にも就職していただける、看護師の方々が増えていただけるとを願っています。
地域包括ケアシステムの推進において病院から在宅へ拠点を移す際の退院支援や退院後の医療支援において看護師の役割はなにより大切と思えます。地域医療を支えるうえで貴校の取り組みに大いに期待いたします。
地域包括支援センターからは新卒で看護師は採用できないので直接募集はできませんが、将来的に卒業生が保健師になった際は検討したいです。
地元開設されることは、当法人や地域にとって、大変意義ある計画であると思えます。
地元で看護が学べる場所ができるのは歓迎します。がんばってください。
田舎の小さな病院です。地域医療に関心がある人、在宅医療にとり組んでみたい人も育成して下さい。
道東における地域医療を支えていけるよう指導教育してほしいと思えます。
道東地区で看護学科ができることは大変地域医療に貢献すると思えます。
道東地方は看護師不足が続いています。看護学科できることはとても良いことだと思います。

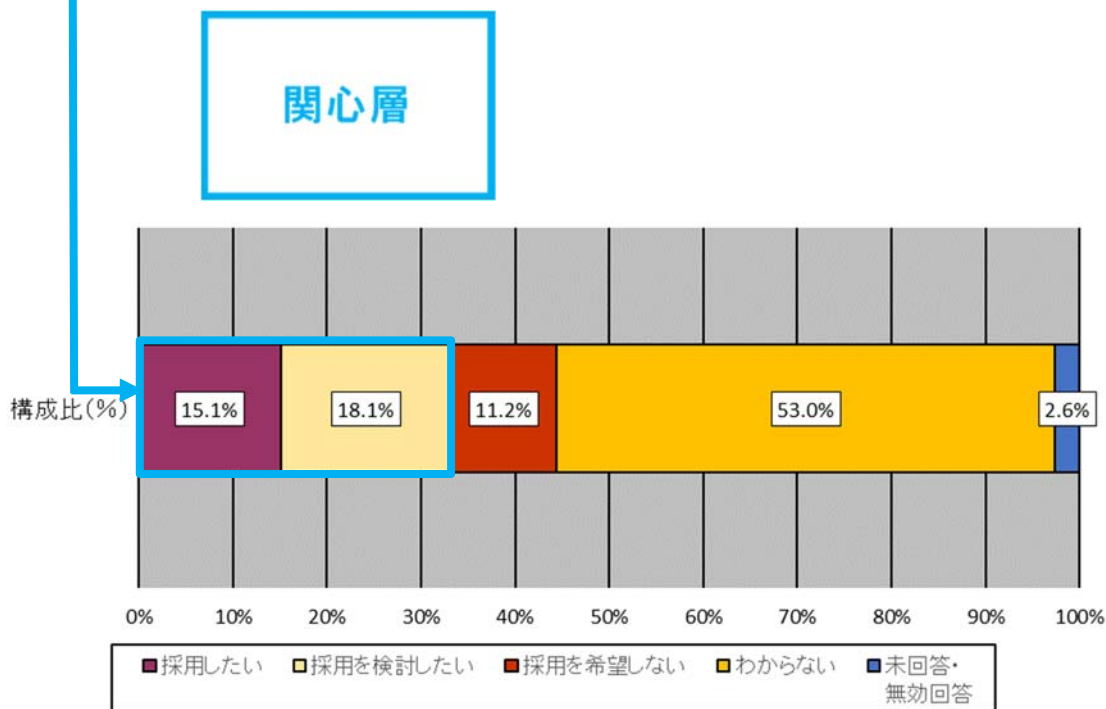
4. 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への関心分析

帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)の関心層

帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)への関心を分析するため、次のとおり「関心層」を定義する。Q8)-1において、卒業生を「採用したい」35 事業所(15.1%)、「採用を検討したい」42 事業所(18.1%)と回答した計 77 事業所(33.2%)を「関心層」と定義し、次項より「関心層」の傾向を分析する。

Q8)-1 貴事業所では、帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)卒業生の看護師の採用についてどのようにお考えですか。

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	232	100.0%
採用したい	35	15.1%
採用を検討したい	42	18.1%
採用を希望しない	26	11.2%
わからない	123	53.0%
未回答・無効回答	6	2.6%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*次頁以降の集計は、各設問から未回答・無効回答を除いて集計

Q1) 事業所の種別×Q8)-1 採用意向

関心層の事業所の種別は、「病院、医院、診療所」42 事業所 (55.3%) が最も多く、「その他」23 事業所 (30.3%)、「訪問看護ステーション」7 事業所 (9.2%) と続いている。また、dif(関心層での比率－全体平均での比率)では、関心層と事業所の種別で「病院、医院、診療所」と回答した層に相関性がみられ、「その他」と回答した層にやや相関性がみられる。

Q1) 事業所の種別と Q8)-1 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)卒業生の看護師採用意向との相関性

単位：(事業所) (%)

Q1)種別	全体平均		採用したい		採用を検討したい		関心層		dif	採用を希望しない		わからない	
	調査数	比率	調査数	比率	調査数	比率	調査数	比率		調査数	比率	調査数	比率
調査数	222	100.0%	34	100.0%	42	100.0%	76	100.0%		26	100.0%	120	100.0%
病院、医院、診療所	101	45.5%	19	55.9%	23	54.8%	42	55.3%	9.8%	9	34.6%	50	41.7%
訪問看護ステーション	33	14.9%	2	5.9%	5	11.9%	7	9.2%	-5.7%	5	19.2%	21	17.5%
地方自治体・保健センター	17	7.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-7.7%	3	11.5%	14	11.7%
介護老人保健施設	11	5.0%	2	5.9%	2	4.8%	4	5.3%	0.3%	2	7.7%	5	4.2%
保健所	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	60	27.0%	11	32.4%	12	28.6%	23	30.3%	3.2%	7	26.9%	30	25.0%

上記は、表頭(表の上側)に「Q8)-1 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)卒業生の看護師採用意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載した。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体平均での比率

Q2) 事業所の所在地×Q8)-1 採用意向

関心層の事業所の所在地は、「十勝管内」52 事業所 (67.5%) が最も多く、7 割近くとなっており、「オホーツク管内(網走・北見・紋別)」12 事業所 (15.6%)、「釧路・根室管内」11 事業所 (14.3%) と続いている。また、dif(関心層での比率－全体平均での比率)では、関心層と事業所の所在地で「オホーツク管内(網走・北見・紋別)」と回答した層にやや相関性がみられる。

Q2) 事業所の所在地と Q8)-1 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)の採用意向との相関性

単位：(事業所) (%)

Q2)所在地	全体平均		採用したい		採用を検討したい		関心層		dif	採用を希望しない		わからない	
調査数	226	100.0%	35	100.0%	42	100.0%	77	100.0%		26	100.0%	123	100.0%
十勝管内	165	73.0%	22	62.9%	30	71.4%	52	67.5%	-5.5%	20	76.9%	93	75.6%
釧路・根室管内	31	13.7%	5	14.3%	6	14.3%	11	14.3%	0.6%	4	15.4%	16	13.0%
オホーツク管内(網走・北見・紋別)	26	11.5%	6	17.1%	6	14.3%	12	15.6%	4.1%	2	7.7%	12	9.8%
その他	4	1.8%	2	5.7%	0	0.0%	2	2.6%	0.8%	0	0.0%	2	1.6%

上記は、表頭(表の上側)に「Q8)-1 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)卒業生の看護師採用意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載した。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体平均での比率

Q3) 事業所の規模×Q8)-1 採用意向

関心層の事業所の規模は、「50名未満」26事業所(33.8%)が最も多く、3割以上となっており、「100-299名」23事業所(29.9%)、「50-99名」18事業所(23.4%)と続いている。また、dif(関心層での比率-全体平均での比率)では、関心層と事業所の規模で「100-299名」と回答した層に高い相関性がみられ、「50-99名」と回答した層にも相関性がみられる。

Q3) 事業所の規模と Q8)-1 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)卒業生の看護師採用意向との相関性

単位：(事業所) (%)

Q3)従業員数	全体平均		採用したい		採用を検討したい		関心層		dif	採用を希望しない		わからない	
調査数	224	100.0%	35	100.0%	42	100.0%	77	100.0%		26	100.0%	121	100.0%
50名未満	132	58.9%	11	31.4%	15	35.7%	26	33.8%	-25.2%	22	84.6%	84	69.4%
50-99名	35	15.6%	8	22.9%	10	23.8%	18	23.4%	7.8%	4	15.4%	13	10.7%
100-299名	43	19.2%	12	34.3%	11	26.2%	23	29.9%	10.7%	0	0.0%	20	16.5%
300-499名	7	3.1%	3	8.6%	2	4.8%	5	6.5%	3.4%	0	0.0%	2	1.7%
500-999名	4	1.8%	1	2.9%	3	7.1%	4	5.2%	3.4%	0	0.0%	0	0.0%
1,000名以上	3	1.3%	0	0.0%	1	2.4%	1	1.3%	0.0%	0	0.0%	2	1.7%

上記は、表頭(表の上側)に「Q8)-1 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)卒業生の看護師採用意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載した。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率-全体平均での比率

Q5) 人材充足状況×Q8)-1 採用意向

関心層の人材充足状況は、「不足している」31 事業所 (40.3%) が最も多く、「やや不足している」26 事業所 (33.8%)、「ある程度充足している」16 事業所 (20.8%) と続いている。また、dif (関心層での比率－全体平均での比率) では、関心層と人材充足状況で「不足している」と回答した層に非常に高い相関性が、「やや不足している」と回答した層にも高い相関性がみられる。

Q5) 人材充足状況と Q8)-1 帯広大谷短期大学 看護学科 (仮称) 卒業生の看護師採用意向との相関性

単位：(事業所) (%)

Q5)充足状況	全体平均		採用したい		採用を検討したい		関心層		dif	採用を希望しない		わからない	
調査数	223	100.0%	35	100.0%	42	100.0%	77	100.0%		25	100.0%	121	100.0%
不足している	53	23.8%	19	54.3%	12	28.6%	31	40.3%	16.5%	5	20.0%	17	14.0%
やや不足している	53	23.8%	13	37.1%	13	31.0%	26	33.8%	10.0%	6	24.0%	21	17.4%
ある程度充足している	62	27.8%	3	8.6%	13	31.0%	16	20.8%	-7.0%	5	20.0%	41	33.9%
充足している	48	21.5%	0	0.0%	4	9.5%	4	5.2%	-16.3%	8	32.0%	36	29.8%
わからない	7	3.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-3.1%	1	4.0%	6	5.0%

上記は、表頭(表の上側)に「Q8)-1 帯広大谷短期大学 看護学科 (仮称) 卒業生の看護師採用意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載した。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体平均での比率

Q6) 人材採用の際の重視点 (3 つまで選択) × Q8)-1 採用意向

関心層の設置の人材採用の際の重視点は、「コミュニケーション能力」68 事業所 (31.5%) が最も多く、「チームで働く力」44 事業所 (20.4%)、「自己管理能力」32 事業所 (14.8%) と続いており、「語学力」「国際感覚(広い視野・価値観)」各 0 事業所 (0.0%) や「専攻分野の基礎学力」10 事業所 (4.6%) 等についてはあまり重視されていない。また、dif(関心層での比率－全体平均での比率)では、関心層と人材採用の際の重視点で「自己管理能力」と回答した層にやや相関性がみられ、「チャレンジ精神・積極性」「コミュニケーション能力」と回答した層にもわずかに相関性がみられる。

Q6) 人材採用時の重視点と Q8)-1 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)卒業生の看護師採用意向との相関性

単位：(事業所) (%)

Q6)重視	全体平均		採用したい		採用を検討したい		関心層		dif	採用を希望しない		わからない	
調査数	621	100.0%	98	100.0%	118	100.0%	216	100.0%		69	100.0%	336	100.0%
コミュニケーション能力	191	30.8%	32	32.7%	36	30.5%	68	31.5%	0.7%	18	26.1%	105	31.3%
語学力	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
課題発見・課題解決能力	71	11.4%	12	12.2%	9	7.6%	21	9.7%	-1.7%	12	17.4%	38	11.3%
チームで働く力	140	22.5%	19	19.4%	25	21.2%	44	20.4%	-2.2%	20	29.0%	76	22.6%
チャレンジ精神・積極性	58	9.3%	8	8.2%	14	11.9%	22	10.2%	0.8%	3	4.3%	33	9.8%
国際感覚(広い視野・価値観)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
アセスメント力	53	8.5%	8	8.2%	8	6.8%	16	7.4%	-1.1%	6	8.7%	31	9.2%
専攻分野の基礎学力	26	4.2%	3	3.1%	7	5.9%	10	4.6%	0.4%	5	7.2%	11	3.3%
自己管理能力	72	11.6%	15	15.3%	17	14.4%	32	14.8%	3.2%	5	7.2%	35	10.4%
その他	10	1.6%	1	1.0%	2	1.7%	3	1.4%	-0.2%	0	0.0%	7	2.1%

上記は、表頭(表の上側)に「Q8)-1 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)卒業生の看護師採用意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載した。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体平均での比率

Q7) 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)卒業生への期待(該当するもの全て)×Q8)-1 採用意向

関心層の帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)卒業生への期待は、「チームの一員として行動できる看護職」66 事業所(24.1%)が最も多く、「知識・技術・態度を統合して実践できる看護職」が 59 事業所(21.5%)、「基礎的知識・技術を対象に合わせて創意工夫・応用できる看護職」51 事業所(18.6%)と続いている。また、dif(関心層での比率－全体平均での比率)では、関心層と人材採用の際の重視点で「知識・技術・態度を統合して実践できる看護職」「チームの一員として行動できる看護職」「看護の使命と倫理観に基づき、自己研鑽できる看護職」と回答した層にやや相関性がみられる。

Q7) 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)卒業生への期待と Q8)-1 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)卒業生の看護師採用意向との相関性

単位：(事業所) (%)

Q7)期待	全体平均		採用したい		採用を検討したい		関心層		dif	採用を希望しない		わからない	
調査数	827	100.0%	126	100.0%	148	100.0%	274	100.0%		106	100.0%	447	100.0%
知識・技術・態度を統合して実践できる看護職	168	20.3%	26	20.6%	33	22.3%	59	21.5%	1.2%	23	21.7%	86	19.2%
チームの一員として行動できる看護職	190	23.0%	31	24.6%	35	23.6%	66	24.1%	1.1%	24	22.6%	100	22.4%
基礎的知識・技術を対象に合わせて創意工夫・応用できる看護職	148	17.9%	23	18.3%	28	18.9%	51	18.6%	0.7%	19	17.9%	78	17.4%
看護の使命と倫理観に基づき、自己研鑽できる看護職	137	16.6%	22	17.5%	26	17.6%	48	17.5%	1.0%	16	15.1%	73	16.3%
多様な文化や価値観を受け入れ、国際的な健康課題を理解できる看護職	42	5.1%	6	4.8%	4	2.7%	10	3.6%	-1.4%	4	3.8%	28	6.3%
地域の人々と連携・協働し、保健医療の課題に取り組むことができる看護職	142	17.2%	18	14.3%	22	14.9%	40	14.6%	-2.6%	20	18.9%	82	18.3%

上記は、表頭(表の上側)に「Q8)-1 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)卒業生の看護師採用意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載した。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体平均での比率

5. 採用需要推計

帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)卒業生の看護師採用需要推計

帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)卒業生の看護師が採用される可能性のある人数は下記のとおり。

Q8) 採用意向	採用希望人数内訳(人)	
採用したい	35事業所→計71人	4事業所→未回答
採用を検討したい	42事業所→計65人	7事業所→未回答

実際に採用に至るか否かについては、就職希望者個人の人格や能力が大きく影響することから、ここでは「採用したい」に加えて「採用を検討したい」までを採用需要として定義する。上記の採用意向で人数が未回答であった事業所の採用希望人数を保守的に1事業所当たり1人と仮定した場合、推計採用意向人数(採用の可能性のある人数)は下記のとおりとなる。

Q8) 採用意向	採用希望人数内訳(人)
採用したい 35事業所	35事業所71人+4事業所4人=75人
採用を検討したい 42事業所	42事業所65人+7事業所7人=72人
合計	147人

調査結果に基づく帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)卒業生の推計採用意向人数は、「採用したい」のみで75人となり入学定員(40人)の1.9倍、「採用を検討したい」まで含めると147人で入学定員(40人)の3.7倍となる。以上から、帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)卒業生に対する一定の採用需要があるといえる。

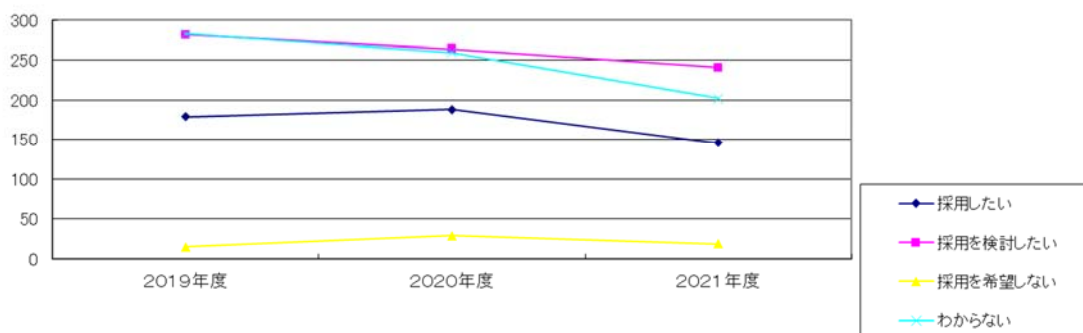
帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)卒業生の潜在的採用需要推計

以下は回答事業所の「Q8」-1 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)卒業生の採用意向」と各事業所の2019年度～2021年度の人材採用実績推移を表にしたものである。「採用したい」、「採用を検討したい」と回答した関心層77事業所の採用実績合計は、2019年度461人(60.8%)、2020年度452人(61.0%)、2021年度387人(63.6%)となっており、減少傾向にあるもののいずれも380人以上の採用人数で推移していることから、関心層の事業所において一定の継続的な人材の採用需要があることが窺われる。

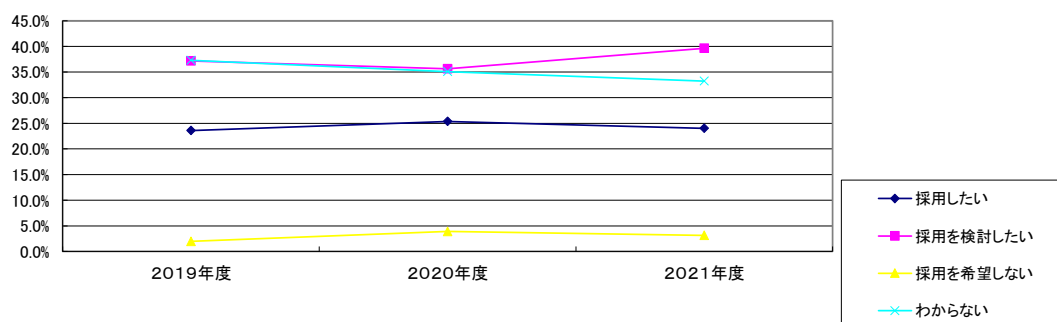
帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)卒業生の看護師の何らかの採用意向を持つ事業所の採用実績推移(2019年度～2021年度)

	2019年度		2020年度		2021年度	
	採用人数(人)	構成比(%)	採用人数(人)	構成比(%)	採用人数(人)	構成比(%)
調査数	759	100.0%	741	100.0%	608	100.0%
採用したい	179	23.6%	188	25.4%	146	24.0%
採用を検討したい	282	37.2%	264	35.6%	241	39.6%
採用を希望しない	19	2.0%	29	3.9%	19	3.1%
わからない	283	37.3%	260	35.1%	202	33.2%

何らかの採用意向を持つ事業所の採用人数推移(2019年度～2021年度)



何らかの採用意向を持つ事業所事業所の構成比率(2019年度～2021年度)



6. 補記

アンケート説明文 1/4

「地元創成」の
看護学

十勝で学ぶ

OBIHIRO OTANI
学校法人 帯広大谷学園

帯広大谷短期大学
看護学科
(仮称)

2023年(令和5年)4月
開設予定

帯広大谷短期大学 看護学科設置準備室

* 学科の名称、定員等の記載内容は現時点での計画であり変更することがあります。

 MARUZEN-YUSHODO

十勝の広い大地でしなやかな心を磨き 地域に貢献できる看護を学べます。

■ 学科の特色

- ・教育の特色として、「地元創成」に貢献する人の育成を基本理念に据え、社会との協調により、地元の自律的で持続的な創成に寄与しつつ、地元の人々の健康と生活に寄与することを目的とする。
教育課程の特色として、シチュエーション・ベースド・ラーニングを取り入れ、地域の方に模擬患者等の役割で協力を仰ぐことを考えている。また、実習先の協力病院の職員研修等と連携連動を図り、卒後教育を含めた専門職キャリアアップ事業に貢献したい。更には、地元を巻き込んだケアネットワーク（地域包括ケアシステム）の一つの核となるような短大を目指し地域貢献を図りたい。
- ・就業看護師のうち男性看護師の割合は7.8%（厚生労働省2018年衛生行政報告例より）の実態にあり、男子学生の比率を高め、看護職の男性比率を高めることに貢献したい。

● 取得可能な資格

看護師国家試験受験資格、保健師学校・助産師学校の受験資格、看護教諭養成学校の受験資格



短期大学で人文学・福祉学・栄養学を学ぶ学生と共に 多職種との協働・連携を楽しく学べます。

■ 学科の構成

入学定員（予定）	
看護学科	40人

収容定員（予定）	
看護学科	120人

～ 養成する学生像 ～

帯広大谷短期大学は、建学の精神並びに教育理念のもとに策定された学科並びに専攻・課程の学位授与の方針に基づき、学則に定める所定の単位を厳格な成績評価のもと修得した学生に対して短期大学士の学位を授与します。

【看護学科 ディプロマ・ポリシー】

1. 保健・医療・介護・福祉組織のチーム活動に必要なコミュニケーション能力を身につけている。
2. 豊かな感性を持ち人間の尊厳を守り、知識・技術・態度を統合して看護を実践できる。
3. 科学的根拠に基づき臨床推論し、看護の対象に合わせて創意工夫・応用ができる。
4. 看護の使命と倫理観に基づき看護専門職として自己研鑽を継続できる。
5. 国や民族・性別の枠を超えて多様な文化や価値観を受け入れ、国際的な健康課題を理解することができる。
6. 保健医療の課題に取り組む地域の人々と連携・協働する能力を身につけることができる。

～ 求める入学者像 ～

帯広大谷短期大学は、確かな教養の上に、社会人、職業人として自立し、社会の発展に寄与するとともに、「支えあいともに生きる社会」実現の担い手となる人を育てることを目標としています。

本学では、この目標の実現に向けて多様な入試方法を通して、次のような人を積極的に受け入れます。

1. 本学の教育を受けるにふさわしい基礎的な学力、適性及び目的意識を持つ人
2. 自らが、幅広い教養と視野を備えた豊かな人間性を求め、高める努力をしようとする人
3. 地域社会の発展に貢献できるよう、各学科の専門分野の知識や技能・技術を身につけることに意欲を持つ人

【看護学科 アドミッション・ポリシー】

看護学科は本学の建学の精神とナイチンゲールの思想に基づき、看護専門職の使命を果たし地域社会に貢献できる人の育成を目指しています。そのため、次のような人を積極的に受け入れます。

1. しなやかさ、あたたかさ、やさしさを備える心を持ち、看護の知識、技術を学ぶ意欲がある人
2. 他者と手を携え、看護を創り出し、工夫することに関心がある人
3. 対象となる人のいのちの物語に興味や関心を持ち続けられる人
4. 自分自身の心身を労わることができる人

～ 卒業後の活躍フィールド ～

● 想定される就職分野

・病院 ・介護老人保健施設 ・特別養護老人ホーム ・訪問看護ステーション ・保育所 ・学校 等

アンケート説明文 4/4

○ 学納金について - 初年度学納金(予定金額です) -

学科名	修業年	入学金	授業料等
看護学科	3年	200,000円程度	1,350,000円程度

- 北海道内における同分野の学部・学科の初年度学納金 -

大学名	学部・学科名	修業年	入学金	授業料等
札幌保健医療大学	保健医療学部看護学科	4年	300,000	1,500,000
天理大学	看護栄養学部看護学科	4年	300,000	1,500,000
日本赤十字北海道看護大学	看護学部	4年	480,000	1,500,000
日本医療大学	保健医療学部看護学科	4年	300,000	1,500,000
北海道科学大学	保健医療学部看護学科	4年	200,000	1,500,000

※他大学の学費は各大学ホームページ掲載情報(2021年4月時点)

※この他に教科書代、実習費代、実習費等が必要となります。

※北海道内に看護科養成を行う短期大学がないため、4年制大学との比較を行っています。

アクセスマップ

新築予定地 〒080-0335 北海道河東郡音更町希望が丘3番地3
 【最寄駅】 JR帯広駅(帯広駅バスターミナルより25分)



○ お問い合わせ
 帯広大谷短期大学 看護学科設置準備室
 〒080-0335
 北海道河東郡音更町希望が丘3番地3

TEL : 0155-42-6048
 FAX : 0155-42-4499
 e-mail : inform@ooje.ac.jp
 URL : <http://www.ooje.ac.jp/>



公式ホームページ

アンケート調査票 1/2

帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)設置に係る事業所アンケート調査

帯広大谷短期大学では、これまでの学科に加えて、新たに看護学科(仮称)の設置に向けて準備を進めています。設置計画検討の参考として、皆さまの率直なご意見をお聞かせください。

【質問1】 貴事業所の主たる種別は次のどれですか。1つ選び○をつけてください。

- 1 病院、医院、診療所 2 訪問看護ステーション 3 地方自治体・保健センター
4 介護老人保健施設 5 保健所 6 その他()

【質問2】 貴事業所の主たる所在地をお教えてください。

- 1 十勝管内 2 釧路・根室管内
3 オホーツク管内(網走・北見・紋別) 4 その他()

【質問3】 貴事業所の従業員数について、該当するものを1つ選び○をつけてください。

- 1 50人未満 2 50～99人 3 100～299人
4 300～499人 5 500～999人 6 1,000人以上

【質問4】 貴事業所では、過去3年間で看護職を何人採用(中途採用を含む)されましたか。該当する欄に採用人数をご記入ください。*詳細がご不明な場合は概数をご記入ください。

2019年度	2020年度	2021年度
()人	()人	()人

【質問5】 貴事業所では、看護職の現在の充足状況についてどのようにお考えですか。次の中から1つ選び○をつけてください。

- 1 不足している 2 やや不足している 3 ある程度充足している
4 充足している 5 わからない

裏面へ続く⇒

アンケート調査票 2/2

【質問6】 貴事業所では人材採用の際、どのような点を重視されていますか。

次の中から 3つまで 選び、○をつけてください。

- | | |
|---------------|------------------|
| 1 コミュニケーション能力 | 2 語学力 |
| 3 課題発見・課題解決能力 | 4 チームで働く力 |
| 5 チャレンジ精神・積極性 | 6 国際感覚(広い視野・価値観) |
| 7 アセスメント力 | 8 専攻分野の基礎学力 |
| 9 自己管理能力 | 10 その他() |

次の【質問7】以降は、別紙リーフレットをご覧ください、ご記入ください。

帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)について

【質問7】 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)の卒業生に、どのようなことを期待しますか。次の中から

該当するものを全て選び○をつけてください。

- 1 知識・技術・態度を統合して実践できる看護職
- 2 チームの一員として行動できる看護職
- 3 基礎的知識・技術を対象に合わせて創意工夫・応用できる看護職
- 4 看護の使命と倫理観に基づき、自己研鑽できる看護職
- 5 多様な文化や価値観を受け入れ、国際的な健康課題を理解できる看護職
- 6 地域の人々と連携・協働し、保健医療の課題に取り組むことができる看護職

【質問8】 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)卒業生の看護師採用についてどのようにお考えですか。

次の中から1つ選び○をつけてください。

- | | |
|---------------|------------------|
| 1 採用したい()人程度 | 2 採用を検討したい()人程度 |
| 3 採用を希望しない | 4 わからない |

【質問9】 帯広大谷短期大学 看護学科(仮称)に対するご意見・ご要望をお聞かせください。

質問は以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。

帯広大谷大学看護学科設置準備室